

指定保育士養成課程 第12期生

シラバス

2025 年度

～シラバスとは～

シラバス（授業計画）は、開講する授業科目の概要・授業の目的・授業内容・評価方法などを掲載したものです。レポート課題やスクーリングにおける注意事項等についても示されています。必ず熟読し、学習の手引きと合わせて、履修すべき授業科目の決定や、授業の履修準備の際に、活用して下さい。

課程修了まで使用します
大切に保管ください

星槎道都大学 通信教育科

【シラバスについて】

学年

科 目 名	担 当 教 員 名
レポートの数	スクーリングの日数
【授業の目的・ねらい】 【授業全体の内容の概要】 【授業修了時の達成課題（到達目標）】	
【授業のテーマ・内容】 【テキスト】	・テキスト(教科書)は必ず用意すること。 (変更の可能性があるので、年度初めの案内を必ず確認すること。) ・記載のものより新しい版が各年度当初までに出版されている場合、基本的に新しいものを使用する。 (記載されている版・年はシラバス発行時点で最新のものの。)
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい	
【レポート作成上の注意点】 【レポート作成のための参考文献】	テキストの改訂版が出た場合、指定されたテキストのページと合わないこともあるが、レポート課題とテキストをよく読み、作成すること。 不明点は「学習の手引き」の「質問票」に記載し、通信教育科にメール・FAX・郵送等で質問すること。 「参考文献」とは、必ず用意をしなければならない文献ではないが、レポートを書くうえで、テキスト以外で参考になる文献をいう。
【スクーリングについて】	
スクーリングで持参する物などを記載している。 予め、注意事項をよく読んで準備をしておくこと。	

本シラバスは、3年間使用するものとなります。

そのため、2年次・3年次科目について、シラバスが変更となる場合がございます。年度初めに変更箇所のご案内を送付しますので、確認し、修正をメモするか、シラバスとともに保管するようにしてください。

また、テキストについても変更となることがあります。テキスト購入にあたっては、年度初めに送られるテキストの案内を参照してください。

1 年生

【各科目の学習のポイント】

～ 1 年生～

保育原理（吉江幸子）…3
社会福祉（上原正希）…4
保育者論（吉江幸子）…5
保育の心理学（吉澤英里）…6
子どもの理解と援助（穴水ゆかり）…7
保育内容総論（吉江幸子）…8
音楽表現Ⅰ（小黒万里子・中島郁子）…9
造形表現Ⅰ（梅田力）…10
身体表現（尾西則昭）…12
乳児保育Ⅰ（松田智子）…13
乳児保育Ⅱ（松田智子）…14
社会福祉の原理と政策（上原正希）…15
ソーシャルワークの基盤と専門職（上原正希）…16
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）（上原正希）…17
教育心理学（吉澤英里）…18
健康科学（尾西則昭）…20
スポーツ総合（米野宏）…21
外国語コミュニケーション（信濃吉彦）…22
社会学と社会システム（松下守邦）…23
心理学と心理的支援（吉澤英里）…25

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
保育原理		吉江 幸子
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	必修
【授業の目的・ねらい】 保育の意義、目的について理解する。保育に関する法令及び制度を理解する。保育所保育指針における保育の基本について理解する。保育の思想と歴史的変遷について学修し、現状と課題を理解する。 【授業全体の内容の概要】 保育の意義、目的、法令及び制度、保育の目標と方法等を体系的に学修する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 保育の意義、制度、計画・実践（方法・内容）、思想・歴史的変遷等を理解している。 保育所保育指針における保育の基本について理解している。		
【授業のテーマ・内容】 1 保育の理念と概念 2 子どもの最善の利益と保育 3 子ども家庭福祉と保育 4 保育の社会的役割と責任 5 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令 6 子ども・子育て支援新制度 7 保育の実施体系 8 保育所保育指針 9 保育所保育に関する基本原則 10 保育における養護 11 保育の目標、保育の内容 12 保育の環境と方法 13 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）とその循環 14 諸外国の保育の思想と歴史・日本の保育の思想と歴史 15 諸外国の保育の現状・日本の保育の現状と課題・まとめ		
【テキスト】 天野珠路他 編集（2019）『新基本保育シリーズ①「保育原理」』中央法規出版		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。 『保育の基本および保育の現状と課題』を論じなさい。 【レポート作成上の注意点】 1. 指定テキストや参考文献を参照すること。 2. レポートをまとめるにあたっては、<u>受講者自身が考える解決策</u>をレポートの最後にまとめること。 3. 参考文献・引用文献は使用テキストを含め、必ず記入すること。 【レポート作成のための参考文献】 厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説書』		

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名	
社会福祉		上原 正希	
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類	
1 本	なし	必修	
【授業の目的・ねらい】 保育士に必要な社会福祉の視点について、知識として学びます。			
【授業全体の内容の概要】 社会福祉の視点を基礎に児童、地域サポートなどについて学びます。			
【授業修了時の達成課題（到達目標）】 児童の支援に、なぜ社会福祉の視点が必要なのか述べることができる。			
【授業のテーマ・内容】 1 保育と社会福祉 2 社会福祉の道すじ 3 社会福祉の意味と考え方 4 社会福祉の実施体制と財源 5 暮らしを支える社会保障制度 6 子どもと家族の福祉－現状と課題 7 子どもと家族の福祉－事例その1 8 子どもと家族の福祉－事例その2 9 障害のある人の福祉 10 高齢者の福祉 11 地域福祉 12 社会福祉の専門職と倫理 13 保育士とソーシャルワーク 14 保育士とソーシャルワーク 15 利用者の権利擁護とサービスの質			
【テキスト】 杉本敏夫監修（2021）『社会福祉 原理と政策』ミネルヴァ書房			
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 社会福祉とは何でしょうか？記載しなさい。			
【レポート作成上の注意点】 テキストを参考に記載してください。			
【レポート作成のための参考文献】 テキストを参考に記載してください。			

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
保育者論		吉江 幸子
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	必修
【授業の目的・ねらい】 保育者の役割と倫理について理解する。保育士の制度的な位置づけを理解し、その専門性について考察する。保育者の連携・協働について理解する。保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 【授業全体の内容の概要】 保育者の役割、倫理、協働、専門職的成長及び保育士の制度的な位置づけ、専門性について体系的に学修する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 保育者の役割、倫理、協働、専門職的成長について理解したことを説明する。 保育士の制度的な位置づけ、専門性について理解したことを説明する。		
【授業のテーマ・内容】 1 保育者の役割・職務内容と倫理 2 児童福祉法における保育士の定義 3 保育士の資格・要件 4 欠格事由、信用失墜行為及び秘密義務保持等 5 保育士の資質・能力 6 養護及び教育の一体的展開 7 家庭との連携と保護者に対する支援 8 計画に基づく保育の実践と省察・評価 9 保育の質の向上 10 保育における職員間の連携・協働 11 専門職間及び専門機関との連携・協働 12 地域における自治体や関係機関等との連携・協働 13 資質向上に関する組織的取組 14 保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義 15 組織とリーダーシップ、まとめ		
【テキスト】 矢藤誠慈郎他 編集（2019）『新基本保育シリーズ⑦「保育者論」』中央法規出版		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 「保育者に求められる資質と専門性の向上」について論じなさい。 【レポート作成上の注意点】 ①指定テキスト第1章、第2章、第5章を参考に作成すること。 ②上記①で論じた内容をもとにしながら、最後に<u>受講者自身が考える「理想の保育者像」</u>を述べること。 ③参考文献・引用文献は使用テキストを含め、必ず記入すること。 【レポート作成のための参考文献】 1. 厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説書』 2. 文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説書』		

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
保育の心理学		吉澤 英里
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	必修
【授業の目的・ねらい】 1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。 【授業全体の内容の概要】 保育と心理学、子どもの発達理解、人との相互的にかかわりと子どもの発達、生涯発達と初期経験の重要性について学修する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 胎児期、乳幼児期から児童青年期までの発達理解、相互的にかかわりの重要性、生涯発達の概観を理解する。		
【授業のテーマ・内容】 1 子どもの発達を理解することの意義 2 子どもの発達と環境 3 発達理論と子ども観・保育観 4 乳児期の原始反射、運動機能の発達 5 乳幼児期の愛着形成 6 乳児期の学びに関わる理論 7 乳児期の学びの過程と特性 8 乳幼児期の学びを支える保育 9 乳児期の社会性の発達 10 社会情動的発達 11 身体的機能と運動機能の発達 12 認知の発達 13 言語の発達 14 児童期の思考の発達 15 道徳性の発達		
【テキスト】 杉村伸一郎他 編（2019）『新基本保育シリーズ⑧ 保育の心理学』中央法規		
【レポート課題について】 次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい 乳幼児の発達において、環境との相互作用の重要性について論じなさい。 【レポート作成上の注意点】 自分の考えとその根拠を含めた内容にして下さい。 【レポート作成のための参考文献】 長谷部 比呂美・日比 暁美・山岸 道子・吉村 真理子（著）『保育の心理学』 ななみ書房		

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名	
子どもの理解と援助		穴水 ゆかり	
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類	
なし	2 日間	必修	
【授業の目的・ねらい】 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を学修し、子ども理解のための具体的な方法を理解する。子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。			
【授業全体の内容の概要】 子どもの実態に応じた発達を理解する視点及び理解する方法について学修する。さらに、発達課題に応じた援助と関わりについて理解を深める。			
【授業修了時の達成課題（到達目標）】 子どもを理解する視点について説明できる。 子どもを理解する上での基本的な考え方がわかる。			
【授業のテーマ・内容】 1 保育における子どもの理解の意義 2 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開 3 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 4 子どもを理解する視点①子どもの生活や遊び 5 子どもを理解する視点②保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 6 子どもを理解する視点③子ども相互のかかわりと関係づくり 7 子どもを理解する視点④集団における経験と育ち、葛藤、つまづき 8 子どもを理解する視点⑤保育の環境の理解と構成、環境の変化・移行 9 子どもを理解する方法①観察・記録 10 子どもを理解する方法②省察・評価 11 子どもを理解する方法③職員間の対話、保護者との情報の共有 12 発達の課題に応じた援助と関わり 13 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 14 発達の連続性と就学への支援 15 子どもの理解に基づく発達援助・まとめ			
【テキスト】 1) 使用テキストなし ・資料の提供 参考図書の紹介をスクーリング時に行います。 2) 参考文献として「保育内容総論」で使用する下記 2 冊をスクーリング時に活用			
【スクーリングについて】 ・以下の 2 冊を持参してください。 (この 2 冊は「保育内容総論」で使用するテキストと同じものです) ① 厚生労働省 (2017) 『保育所保育指針<平成 29 年告示>』フレーベル館 ② 厚生労働省 (2018) 『保育所保育指針解説書平成 30 年 3 月』フレーベル館			

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名	
保育内容総論		吉 江 幸 子	
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類	
なし	2 日間	必修	
【授業の目的・ねらい】 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。また、保育所保育指針の各章のつながり、保育の全体的な構造について理解する。 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景や歴史的変遷を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。 保育の多様な展開について具体的に理解する。			
【授業全体の内容の概要】 保育の全体構造と保育内容について学修する。 保育の基本を踏まえた保育内容の展開及び保育の多様な展開について学修する。			
【授業修了時の達成課題（到達目標）】 保育所保育指針をもとに保育の全体構造と保育内容について理解できる。 保育の基本を踏まえた保育内容の展開と保育の多様な展開について理解できる。			
【授業のテーマ・内容】 1 保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解 2 保育の内容の歴史的変遷とその社会的背景 3 子どもの発達や生活に即した保育の内容の基本的な考え方 4 保育の基本的な考え方①養護と教育が一体的な保育、子どもの主体性、環境を通して行う保育 5 保育の基本的な考え方②生活や遊びによる総合的な保育、個と集団の発達を踏まえた保育 6 保育の基本的な考え方③家庭・地域、小学校等との連携を踏まえた保育 7 長時間保育、特別な配慮を要する子どもの保育 8 多文化共生の保育、まとめ			
【テキスト】 ・厚生労働省（2017）『保育所保育指針＜平成 29 年告示＞』フレーベル館 ・厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説書平成 30 年 3 月』フレーベル館			
【スクーリングについて】 指定テキストを持参してください。 ※はさみ、折り紙(大きさや色に指定はありません)を 5 ～ 6 枚持参してください。			

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名	
音楽表現Ⅰ		小黒 万里子・中島 郁子	
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類	
なし	2 日間	必修	
【授業の目的・ねらい】 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。保育における教材等の活用及び作成と、身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。			
【授業全体の内容の概要】 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な音楽表現の知識、技術を学修する。身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむための保育の環境について実践的に学修する。			
【授業修了時の達成課題（到達目標）】 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な音楽表現の知識、技術を習得する。身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。			
【授業のテーマ・内容】 1 保育の内容「表現」の中の音楽表現について 2 音・動き・リズム・ことばの音楽表現①（歌と楽器） 3 音・動き・リズム・ことばの音楽表現②（歌と楽器） 4 音・動き・リズム・ことばの音楽表現③（歌と楽器） 5 音・動き・リズム・ことばの音楽表現④（歌と楽器） 6 音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑤（歌と楽器） 7 音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑥（歌と楽器） 8 音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑦（歌と楽器） 9 音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑧（歌と楽器） 10 音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑨（歌と楽器） 11 音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑩（歌と楽器） 12 てあそび歌、わらべ歌① 13 てあそび歌、わらべ歌② 14 てあそび歌、わらべ歌③ 15 音楽表現のまとめ			
【テキスト】 星山麻木 編著・板野和彦 著（2018）『一人一人を大切に作るユニバーサルデザインの音楽表現 第2版』萌文書林			
【スクーリングについて】 ・「指定テキスト」と「五線ノート」を忘れないようにして下さい。			

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名	
造形表現Ⅰ		梅田 力	
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類	
なし	2 日間	必修	
【授業の目的・ねらい】 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と共に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。保育における教材等の活用及び作成と、身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。			
【授業全体の内容の概要】 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識、技術を学修する。身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に学修する。			
【授業修了時の達成課題（到達目標）】 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識、技術を習得する。身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。			
【授業のテーマ・内容】 1 ガイダンス 保育の内容における造形表現とは 2 造形表現の基本的教育方法 3 発達段階理論 4 造形表現のための基本技法① 5 造形表現のための基本技法② 6 造形表現のための基本技法③ 7 造形表現のための基本技法④ 8 造形表現のための基本技法⑤ 9 造形表現のための応用技法① 10 造形表現のための応用技法② 11 造形表現のための応用技法③ 12 造形表現のための応用技法④ 13 造形表現のための応用技法⑤ 14 さまざまな造形表現と保育の環境 1 15 さまざまな造形表現と保育の環境 2・まとめ			
【テキスト】 樋口一成 編著（2018）『幼児造形の基礎 一乳幼児の造形表現と造形教材一』萌文書林			
【スクーリングについて】 スクーリング期間中に以下の作品を制作します。 「3歳未満児と造形表現」 「3歳以上児と造形表現」 「造形表現のための基本技法・はじき絵」 「造形表現のための基本技法・スクラッチ」 「造形表現のための応用技法・フィンガーペインティング」 「造形表現のための応用技法・紙版画」など ＜スクーリングの際に持参するもの＞ スクーリングの際には、各自で素材を揃え、持参してください。高価な画材を揃える必要はなく、100円均一や近隣のホームセンター、文具店を利用する事を推奨します。自身が生活する環境では、どんな素材が手に入るか、実際に画材を見に行つて、あれこれ授業を想像しながら、画材を揃えることは、充実した造形活動を行うために大切な事前準備となります。（テキスト p20 に該当）			

→次項に続く

→次項に続く

以下準備するもの（カッコ内 pp はテキスト参照ページ）

- （１）クレヨン（12色セット以上）＊100均にあり。
但しメーカー（ぺんてる等）は発色が◎（pp54-59）
- （２）水彩絵の具（12色セット以上） ＊100均にあり（pp50-53）
- （３）絵の具用筆×2本（太いものが望ましい。）＊100均で購入推奨（pp50-53）
- （４）画用紙 20枚程度 A4～B4程度（厚さは自由）
＊100均、ホームセンター、文房具店等にあり（pp64-67）
- （５）紙袋やケース（作品持ち帰り用）
- （６）汚れてもよい服装でくること（または、エプロン着用）
- （７）テキストを持参してください

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名																																													
身体表現		尾西 則昭																																													
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類																																													
なし	2 日間	必修																																													
【授業の目的・ねらい】 身体で表現することの楽しさを体験しながら、身体の様々な部分を動かす能力、表現方法、創作能力を身に付け、自己表現力を高める。 【授業全体の内容の概要】 子どもたちに身体表現の楽しさを伝えるためには、自らが楽しさを体感し、自分の身体表現を自覚している必要がある。 リズムに乗って身体を動かすことから始め、様々な表現方法を学び、自分なりの表現能力を育んでいく。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 実践的な身体表現活動を通して、子どもの発達段階に応じた身体表現活動の題材や指導方法について学習する。また、イメージや動きを引き出す効果的な言葉かけや環境設定の工夫等、的確な保育の援助について理解を深める。																																															
【授業のテーマ・内容】 <table border="0"> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方、ダンスの特性について、成績評価など</td></tr> <tr> <td>2</td><td>リズム運動①</td><td>ウォーミングアップ</td></tr> <tr> <td>3</td><td>リズム運動②</td><td>リズムの特徴をとらえた動きで表現する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>リズム運動③</td><td>リズムの特徴をとらえた動きで表現する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>リズム運動④</td><td>リズムの特徴をとらえた動きで表現する。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>リズム運動⑤</td><td>リズムの特徴をとらえた動きで表現する。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>創作活動の基礎</td><td>群の構成、空間の使い方、グループ分け</td></tr> <tr> <td>8</td><td>作品創作①</td><td>作品創作（グループ・個人の作品づくり）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>作品創作②</td><td>作品創作（グループ・個人の作品づくり）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>作品創作③</td><td>作品創作（グループ・個人の作品づくり）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>作品創作④</td><td>作品創作（グループ・個人の作品づくり）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>作品創作⑤</td><td>作品創作（グループ・個人の作品づくり）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>作品創作⑥</td><td>作品創作（グループ・個人の作品づくり）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>作品創作⑦</td><td>作品創作（グループ・個人の作品づくり） リハーサル実施</td></tr> <tr> <td>15</td><td>試験・まとめ</td><td>作品発表（発表に向けた衣装・道具の準備）</td></tr> </table>			1	オリエンテーション	授業の進め方、ダンスの特性について、成績評価など	2	リズム運動①	ウォーミングアップ	3	リズム運動②	リズムの特徴をとらえた動きで表現する。	4	リズム運動③	リズムの特徴をとらえた動きで表現する。	5	リズム運動④	リズムの特徴をとらえた動きで表現する。	6	リズム運動⑤	リズムの特徴をとらえた動きで表現する。	7	創作活動の基礎	群の構成、空間の使い方、グループ分け	8	作品創作①	作品創作（グループ・個人の作品づくり）	9	作品創作②	作品創作（グループ・個人の作品づくり）	10	作品創作③	作品創作（グループ・個人の作品づくり）	11	作品創作④	作品創作（グループ・個人の作品づくり）	12	作品創作⑤	作品創作（グループ・個人の作品づくり）	13	作品創作⑥	作品創作（グループ・個人の作品づくり）	14	作品創作⑦	作品創作（グループ・個人の作品づくり） リハーサル実施	15	試験・まとめ	作品発表（発表に向けた衣装・道具の準備）
1	オリエンテーション	授業の進め方、ダンスの特性について、成績評価など																																													
2	リズム運動①	ウォーミングアップ																																													
3	リズム運動②	リズムの特徴をとらえた動きで表現する。																																													
4	リズム運動③	リズムの特徴をとらえた動きで表現する。																																													
5	リズム運動④	リズムの特徴をとらえた動きで表現する。																																													
6	リズム運動⑤	リズムの特徴をとらえた動きで表現する。																																													
7	創作活動の基礎	群の構成、空間の使い方、グループ分け																																													
8	作品創作①	作品創作（グループ・個人の作品づくり）																																													
9	作品創作②	作品創作（グループ・個人の作品づくり）																																													
10	作品創作③	作品創作（グループ・個人の作品づくり）																																													
11	作品創作④	作品創作（グループ・個人の作品づくり）																																													
12	作品創作⑤	作品創作（グループ・個人の作品づくり）																																													
13	作品創作⑥	作品創作（グループ・個人の作品づくり）																																													
14	作品創作⑦	作品創作（グループ・個人の作品づくり） リハーサル実施																																													
15	試験・まとめ	作品発表（発表に向けた衣装・道具の準備）																																													
【テキスト】 テキストは使用しません。																																															
【スクーリングについて】 ・当日は①ジャージ、屋内用運動靴を必ず用意する。②アクセサリ（指輪、ピアス等）は全て外す。③携帯電話の電源は必ず切る。④貴重品・多額の現金は持参しない事。 ※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上、当日指示を受けること。																																															

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
乳児保育 I		松田 智子
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	必修
【授業の目的・ねらい】 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 【授業全体の内容の概要】 乳児保育の意義・目的と役割について学修する。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容や職員及び地域等関係機関との連携と協働について学習し理解を深める。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 乳児保育の意義・目的と役割について理解する。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容や職員及び地域等関係機関との連携と協働について理解する。		
【授業のテーマ・内容】 1 オリエンテーション 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 2 乳児保育の役割と機能 3 乳児保育における養護及び教育 4 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 5 保育所における乳児保育 6 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育 7 家庭的保育等における乳児保育 8 3歳未満児とその過程を取り巻く環境と子育て支援の場 9 3歳未満児の生活と環境 10 3歳未満児の遊びと環境 11 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 12 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 13 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 14 乳児保育における計画・記録・評価とその意義 15 乳児保育における職員間及び保護者や自治体等関係機関との連携・協働 まとめ		
【テキスト】 大橋喜美子（2022）『新時代の保育双書 乳児保育 第4版』株式会社みらい		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 乳児期の発達で注意すべき点と、それに対しどのように保育すべきかについて記載しなさい。 【レポート作成上の注意点】 テキストを熟読し記載して下さい。 【レポート作成のための参考文献】 なし		

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
乳児保育Ⅱ		松田 智子
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
なし	2 日間	必修
【授業の目的・ねらい】 3 歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。養護と教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する。乳児保育における配慮の実践について具体的に理解する。これらを踏まえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。 【授業全体の内容の概要】 乳児保育の基本を理解した上で、3 歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践を学修する。乳児保育における健康、安全のための配慮と指導計画の実践について学修する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 3 歳未満児の基本を理解し、発育・発達を踏まえた生活と遊びが理解できる。乳児保育における健康、安全のための配慮と指導計画について理解している。		
【授業のテーマ・内容】 1 オリエンテーション 子どもと保育士等との関係の重要性 2 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり 3 子どもの主体性の尊重と自己の育ち 4 子どもの体験と学びの芽生え 5 子どもの 1 日の生活の流れと保育の環境 6 子どもの生活や遊びを支える環境の構成 7 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実践 8 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践 9 子ども同士の関わりとその援助の実践 10 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 11 集団での生活における配慮 12 環境の変化や移行に対する配慮 13 長期的な指導計画と短期的な指導計画 14 個別的な指導計画と集団の指導計画 15 まとめ		
【テキスト】 大橋喜美子（2022）『新時代の保育双書 乳児保育 第 4 版』株式会社みらい		
【スクーリングについて】 「テキスト」と「工作用はさみ」を使用しますので、持参ください。		

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
社会福祉の原理と政策		上原 正希
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	選択必修
【授業の目的・ねらい】 子ども家庭支援の視点から社会福祉を理解することを第一義とする。そのためにも、社会福祉の法制度、相談援助技術、福祉サービス提供体制、権利擁護などについて理解する。 本授業終了時には、自分なりの福祉観、「福祉とは？」に対する自分なりの考え方を持てるようになる。 【授業全体の内容の概要】 福祉理念・制度の変遷、福祉ニーズと社会資源、構成要素、福祉サービス、相談援助技術の学びから子ども家庭支援の関連を学ぶ。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 福祉サービス提供がどのように実施されているのかを理解すると共に、現代の課題や今後の動向を考慮して自らの福祉観の基盤を構築する。		
【授業のテーマ・内容】 1 現代社会の変化と社会福祉 2 社会福祉の理念と意義 3 社会福祉の歴史的変遷 4 社会福祉の法制と行財政 5 児童・家庭の問題と実施体制 6 社会福祉における社会資源（機関、施設など） 7 社会福祉の担い手と専門職制度 8 社会保障制度と関連制度の概要Ⅰ（公的扶助、社会保険） 9 社会保障制度と関連制度の概要Ⅱ（福祉を直接の目的としない政策） 10 相談援助技術の概要 11 地域福祉の推進（施設から地域・居宅へ：福祉コミュニティ、地域包括ケア） 12 利用者保護制度（苦情解決制度、第三者評価事業、成年後見制度） 13 福祉サービスの供給主体とその理念（福祉国家から福祉社会・共生社会へ） 14 諸外国の動向 15 社会福祉の動向と課題		
【テキスト】 福祉臨床シリーズ編集委員会編 福田幸夫責任編集・長岩嘉文責任編集（2021） 『社会福祉の原理と政策』弘文堂		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べてください 現代における社会問題、とりわけ児童の問題について論じなさい。 【レポート作成上の注意点】 教科書を丸写ししないように記載してください。 【レポート作成のための参考文献】 特になし。		

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
ソーシャルワークの基盤と専門職		上原 正希
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	選択必修
【授業の目的・ねらい】 ①ソーシャルワークについて理解する。 ②ソーシャルワークと保育士の関係について理解する。 ③保育士が、ソーシャルワークを活用する際の原理について理解する。 【授業全体の内容の概要】 ①ソーシャルワークについて学ぶ。 ②ソーシャルワークの役割と意義について学ぶ。 ③ソーシャルワークと保育士の関係について学ぶ。 ④ソーシャルワークの原理について学ぶ。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ①ソーシャルワークについて理解する。 ②ソーシャルワークの役割と意義について理解する。 ③ソーシャルワークと保育士の関係について理解する。 ④ソーシャルワークの原理について理解する。		
【授業のテーマ・内容】 1 ソーシャルワークとは 2 ソーシャルワークの活用について 3 ソーシャルワークの専門職とは 4 ソーシャルワークを活用する社会福祉士とは 5 ソーシャルワークを活用する精神保健福祉士とは 6 ソーシャルワークを活用する保育士とは 7 ソーシャルワークの専門性とは 8 ソーシャルワークのグローバル定義について 9 保育士としてソーシャルワークの活用について 10 保育士としてソーシャルワークの活用について 11 ソーシャルワークの原理と社会正義－第 4 章 12 ソーシャルワークの原理と人権尊重－第 4 章 13 ソーシャルワークの原理と集団的責任－第 4 章 14 ソーシャルワークの原理と多様性の尊重－第 4 章 15 まとめ		
【テキスト】 杉本敏夫監修（2023）『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（共通）』ミネルヴァ書房		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい ソーシャルワークとは、どんな技術かを記載しなさい。 【レポート作成上の注意点】 ・自分の言葉で整理して下さい。 【レポート作成のための参考文献】 特になし		

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）		上原 正希
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	選択必修
【授業の目的・ねらい】 ①ソーシャルワークの理念について理解する。 ②ソーシャルワークの歴史について理解する。 ③ソーシャルワークの視点について理解する。 【授業全体の内容の概要】 ①ソーシャルワークの理念について学ぶ。 ②ソーシャルワークの歴史について学ぶ。 ③ソーシャルワークの視点について学ぶ。 ④ソーシャルワークの機能について学ぶ。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ①ソーシャルワークの理念について理解する。 ②ソーシャルワークの歴史について理解する。 ③ソーシャルワークの視点について理解する。 ④ソーシャルワークの機能について理解する。		
【授業のテーマ・内容】 1 ソーシャルワークの理念と当事者主体 2 ソーシャルワークの理念と尊厳の保持 3 ソーシャルワークの理念と権利擁護 4 ソーシャルワークの理念と自立支援 5 ソーシャルワークの理念とソーシャルインクルージョン 6 ソーシャルワークの理念とノーマライゼーション 7 ソーシャルワークの理念と保育士 8 ソーシャルワークの歴史と慈善組織協会 9 ソーシャルワークとセツルメント運動 10 ソーシャルワークとモデル 11 ソーシャルワークと統合化 12 専門職の倫理とは 13 ソーシャルワークを活用する人が求められる倫理について 14 倫理が求められる専門職と実際 15 まとめ		
【テキスト】 杉本敏夫監修（2023）『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（共通）』ミネルヴァ書房		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい ソーシャルワークのミクロ・メゾ・マクロとは何かを記載しなさい。 【レポート作成上の注意点】 ・自分の言葉で整理して下さい。 【レポート作成のための参考文献】 特になし		

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
教育心理学		吉澤 英里
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	選択必修
【授業の目的・ねらい】 「学び育つ場」における教育実践に必要な心身の発達と学習過程を理解し、障がいやパーソナリティ、知的能力の違いに応じた学習支援の提案や適切な心理教育的支援について検討できるようになる。 【授業全体の内容の概要】 人間（ヒト）は生涯を通して多様な環境の中で学び、発達する。本講義では心理学による「家庭」「学校」「地域」といった「学び育つ場」における教育実践のために、発達や学習、対人関係、評価と支援など、教育における対象を理解するために必要な基礎知識を提供する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 1. 「学び育つ場」の教育実践に必要な発達について、生涯発達の視点から考え、教育支援の提案ができる。 2. 「学び育つ場」の教育実践に必要な学習過程について理解し、学習支援への活かし方を提案できる。 3. 「学び育つ場」の教育実践に必要な教育評価についての考え方を理解し、教育支援への提案できる。 4. 「学び育つ場」の教育実践に必要なパーソナリティ、知能等の個人差の理解と教育支援への提案できる。 5. 「学び育つ場」の教育実践に必要な合理的配慮に基づいた適切な心理教育的支援について検討できる。		
【授業のテーマ・内容】 1 教育心理学の概要と教育心理学を学ぶ意義 2 発達(1) ー生涯発達の基礎理論ー 3 発達(2) ー発達の諸相と学び育つ場における発達支援ー 4 パーソナリティ(1) ーパーソナリティの基礎理論と個性の発見の方法ー 5 パーソナリティ(2) ーパーソナリティの形成過程における適応・不適応ー 6 学習のメカニズム(1) ー学習の基礎理論と発達との関連ー 7 学習のメカニズム(2) ーメタ認知等の認知理論による学習過程の理解ー 8 学習への動機づけ(1) ー学習への動機づけの基礎理論ー 9 学習への動機づけ(2) ー学習意欲の向上への支援ー 10 学習方略と実践 ー自己調節学習を目指す学習方略と アクティブ・ラーニングへの応用ー 11 知的能力 ー知的能力に関する基礎理論と知的能力の 測定に関する正しい理解ー 12 教育評価(1) ーPDCA サイクルによる適切な学習評価と その基礎理論ー 13 教育評価(2) ー相対評価とルーブリック等の絶対評価 の比較とそれぞれの実践ー 14 配慮を必要とする児童・生徒とその支援 ー障がいの適切な理解と支援ー 15 学校と学級集団の理解 ー学校・学級集団における人間関係と学級経営ー		
【テキスト】 榎本博明（2021）『わかりやすい教育心理学』サイエンス社		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。 (1)テキスト第11章を読み、知的障害、自閉症スペクトラム障害、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥・多動性障害）のいずれか1つの特徴を説明しなさい。(2)保育者あるいは教師として、あなたは(1)で選択した障害のある子どもをどのように支援できるだろうか。第3章～第5章の学習内容も踏まえて、あなたの考えをできるだけ具体的に述べなさい。		

→次頁につづく

【レポート作成上の注意点】

レポート課題は1題です。上記の(1)と(2)はそれぞれ見出しを付けたうえで、合計1,000～1,200字の1つのレポートになるよう、記述してください。また、テキスト全体を熟読して、各章に書かれた関連内容も探してみましょう。さらに、参考文献も積極的に読んでみましょう。

注意点：テキストや他の文献、インターネットの書き写しは絶対に行わないでください。他の人が書いた内容は書いた人の意見です。自分と他人の意見は明確に分けて書きましょう。他の人の意見を示す場合は「 」内に区別して書いて、文献記入欄に参考にした文献を書いてください（引用方法は手引き参照）。自分の考察を自分の言葉でまとめましょう。

【レポート作成のための参考文献】

・田爪 宏二（編著）（2018）『よくわかる教職エクササイズ② 教育心理学』 ミネルヴァ書房

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
健康科学		尾西 則昭
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	教養（必修）
【授業の目的・ねらい】 生涯教育の一環としてのスポーツや健康についての基礎的な科学的知識を深めさせるとともに、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて、望ましい健康観を確立し、豊かな人間性を育成する。 【授業全体の内容の概要】 健康・体力に関する知識、安全に運動を実施する方法などについて学習する。また、自身の健康・体力を自己管理できる能力を身につける。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 自らの健康問題やスポーツ活動に一層深い関心を持って、生涯の健康づくりに留意できる。		
【授業のテーマ・内容】 1 オリエンテーション 講義の概要説明 2 第 1 章 健康について 健康の捉え方と獲得するためのポイント 3 第 2 章 体力について 4 第 3 章 発育・発達について 5 第 4 章 栄養と発達 6 第 5 章 運動やスポーツに伴う身体の変化 7 第 6 章 現代人の身体と運動 8 第 7 章 スポーツ外傷とスポーツ障害 9 第 8 章 救急処置 10 第 9 章 最近の健康問題 11 生活習慣病 12 中毒 13 感染症・精神の病気 14 まとめ 15 試験		
【テキスト】 上林久雄、小島廣政、尾西則昭、小山尋明、佐藤和裕、中川純二、米野宏、石井祐治、天野雅斗、三嶋康嗣 著（2023）『大学生のための健康科学【増訂版】』三和書籍		
【レポート課題について】 次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。 「人間が発育・発達あるいは生命を維持するためにはどんなバランスが必要か説明せよ。」 【レポート作成上の注意点】 「指定のテキスト第 4 章・第 5 章・第 6 章を参考に自分の考えも含めて作成すること。」 【レポート作成のための参考文献】 なし		

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名																																														
スポーツ総合		米野 宏																																														
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類																																														
なし	4 日間	教養（必修）																																														
【授業の目的・ねらい】 基本技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。保育士に必要な健康と体力を保持増進すると共に、身体活動を通して社会性や協調性を養い、高齢社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくために生涯スポーツの基礎を養う。																																																
【授業全体の内容の概要】 多種のスポーツ種目を実施し、各種目の特徴、ルールの理解や基礎的な技術の習得。また、現時点の個々の体力評価・体力の維持増進を図り、自己の行動・防衛体力を高めることをねらいとする。																																																
【授業修了時の達成課題（到達目標）】 地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動に実践できるよう、競技の特性やルールを学び理解する。																																																
【授業のテーマ・内容】 <table><tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>(スポーツに健康に関する諸注意)</td></tr><tr><td>2</td><td>ゲートボール</td><td>基本練習・ルール</td></tr><tr><td>3</td><td>ゲートボール</td><td>基本練習・ゲーム</td></tr><tr><td>4</td><td>キックベースボール</td><td>基本練習・ルール</td></tr><tr><td>5</td><td>キックベースボール</td><td>基本練習・ゲーム</td></tr><tr><td>6</td><td>バドミントン</td><td>基本練習・ルール</td></tr><tr><td>7</td><td>バドミントン</td><td>基本練習・ゲーム</td></tr><tr><td>8</td><td>ソフトバレーボール</td><td>パス・レシーブ・サーブ練習・ルール</td></tr><tr><td>9</td><td>ソフトバレーボール</td><td>パス・レシーブ・サーブ練習・ゲーム(リーグ戦)</td></tr><tr><td>10</td><td>ターゲットゴルフ</td><td>基本練習・ルール・ゲーム</td></tr><tr><td>11</td><td>バスケットボール</td><td>基本練習・ルール・ゲーム</td></tr><tr><td>12</td><td>卓球</td><td>基本練習・ルール</td></tr><tr><td>13</td><td>卓球</td><td>ゲーム</td></tr><tr><td>14</td><td>フライングディスク</td><td>基本練習・ルール・ゲーム</td></tr><tr><td>15</td><td>フィットネス</td><td>ウォーキング(約 10 k m)</td></tr></table>				1	ガイダンス	(スポーツに健康に関する諸注意)	2	ゲートボール	基本練習・ルール	3	ゲートボール	基本練習・ゲーム	4	キックベースボール	基本練習・ルール	5	キックベースボール	基本練習・ゲーム	6	バドミントン	基本練習・ルール	7	バドミントン	基本練習・ゲーム	8	ソフトバレーボール	パス・レシーブ・サーブ練習・ルール	9	ソフトバレーボール	パス・レシーブ・サーブ練習・ゲーム(リーグ戦)	10	ターゲットゴルフ	基本練習・ルール・ゲーム	11	バスケットボール	基本練習・ルール・ゲーム	12	卓球	基本練習・ルール	13	卓球	ゲーム	14	フライングディスク	基本練習・ルール・ゲーム	15	フィットネス	ウォーキング(約 10 k m)
1	ガイダンス	(スポーツに健康に関する諸注意)																																														
2	ゲートボール	基本練習・ルール																																														
3	ゲートボール	基本練習・ゲーム																																														
4	キックベースボール	基本練習・ルール																																														
5	キックベースボール	基本練習・ゲーム																																														
6	バドミントン	基本練習・ルール																																														
7	バドミントン	基本練習・ゲーム																																														
8	ソフトバレーボール	パス・レシーブ・サーブ練習・ルール																																														
9	ソフトバレーボール	パス・レシーブ・サーブ練習・ゲーム(リーグ戦)																																														
10	ターゲットゴルフ	基本練習・ルール・ゲーム																																														
11	バスケットボール	基本練習・ルール・ゲーム																																														
12	卓球	基本練習・ルール																																														
13	卓球	ゲーム																																														
14	フライングディスク	基本練習・ルール・ゲーム																																														
15	フィットネス	ウォーキング(約 10 k m)																																														
【テキスト】 なし																																																
【スクーリングについて】 当日は①ジャージ・屋内用運動靴を必ず用意する。②アクセサリー（指輪、ピアス等）は全て外す。③携帯電話の電源は必ず切る。④貴重品・多額の現金は持参しないこと。 ※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出のうえ当日指示を受けること。																																																

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名																																													
外国語コミュニケーション		信濃 吉彦																																													
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類																																													
1 本	なし	教養（選択）																																													
【授業の目的・ねらい】 コミュニケーション能力を高める目的で、College English に関する言語構造や文法的な基礎の構築を目指す。 【授業全体の内容の概要】 テキストを自学自習することにより、英語に対する理解を深めてもらう。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 英語における基礎的な運用力を身につけると同時に、4 技能を学習することで基礎的なコミュニケーション能力をつけてもらう。																																															
【授業のテーマ・内容】 <table border="0"> <tr><td>1</td><td>英語の文型について 1</td><td>テキスト 8～9</td></tr> <tr><td>2</td><td>英語の文型について 2</td><td>テキスト 10～13</td></tr> <tr><td>3</td><td>5 文型の応用</td><td>テキスト 14～19</td></tr> <tr><td>4</td><td>助動詞</td><td>テキスト 20～25</td></tr> <tr><td>5</td><td>疑問・否定</td><td>テキスト 26～31</td></tr> <tr><td>6</td><td>時勢</td><td>テキスト 32～37</td></tr> <tr><td>7</td><td>発音とアクセント</td><td>テキスト 38～43</td></tr> <tr><td>8</td><td>動詞の特性 1</td><td>テキスト 44～49</td></tr> <tr><td>9</td><td>動詞の特性 2</td><td>テキスト 50～55</td></tr> <tr><td>10</td><td>名詞と代名詞</td><td>テキスト 56～61</td></tr> <tr><td>11</td><td>名詞と冠詞</td><td>テキスト 62～67</td></tr> <tr><td>12</td><td>辞書の使い方</td><td>テキスト 68～73</td></tr> <tr><td>13</td><td>課題提出準備 I</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>課題提出準備 II・総括</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>総復習・試験</td><td></td></tr> </table>			1	英語の文型について 1	テキスト 8～9	2	英語の文型について 2	テキスト 10～13	3	5 文型の応用	テキスト 14～19	4	助動詞	テキスト 20～25	5	疑問・否定	テキスト 26～31	6	時勢	テキスト 32～37	7	発音とアクセント	テキスト 38～43	8	動詞の特性 1	テキスト 44～49	9	動詞の特性 2	テキスト 50～55	10	名詞と代名詞	テキスト 56～61	11	名詞と冠詞	テキスト 62～67	12	辞書の使い方	テキスト 68～73	13	課題提出準備 I		14	課題提出準備 II・総括		15	総復習・試験	
1	英語の文型について 1	テキスト 8～9																																													
2	英語の文型について 2	テキスト 10～13																																													
3	5 文型の応用	テキスト 14～19																																													
4	助動詞	テキスト 20～25																																													
5	疑問・否定	テキスト 26～31																																													
6	時勢	テキスト 32～37																																													
7	発音とアクセント	テキスト 38～43																																													
8	動詞の特性 1	テキスト 44～49																																													
9	動詞の特性 2	テキスト 50～55																																													
10	名詞と代名詞	テキスト 56～61																																													
11	名詞と冠詞	テキスト 62～67																																													
12	辞書の使い方	テキスト 68～73																																													
13	課題提出準備 I																																														
14	課題提出準備 II・総括																																														
15	総復習・試験																																														
【テキスト】 ・大島真、加藤忠明ほか（2006）『Welcome to College English-コミュニケーションのための大学英語入門』南雲堂（ISBN 4-523-17462-8 C0082） ・大島真、加藤忠明ほか（2000）『コミュニケーションのための大学英語入門 学習用ガイド』南雲堂																																															
【レポート課題について】 次の課題について800字～1,600字の範囲(日本語)で述べなさい 課題 教科書のユニット 1～11 の内容・例文等を参考にして「ある日の自分の行動」について英語で作文（日記も可）を作成して下さい。 条件 ①実際に遭ったことを詳しく書いてみましょう。 ②名前・日付・曜日・タイトル・執筆日・提出日だけの表紙も英語で作成してください。 ③300ワード～450ワードを目処に構成してください（文字数ではなく単語数ですので注意してください）。 【レポート作成上の注意点】 ①出来れば手書きは避けてください。（MS ワード推奨 手書きの場合はブロック体で書いてください） ②必ず日本語訳も添付してください。 ③和文のフォントは MS 明朝 12 ④英文のフォントはセンチュリー12 【レポート作成のための参考文献】 お手持ちの参考書や文法書はどんどん活用してください。但し、一般の翻訳ソフトは使用しないでください。無料翻訳アプリ「VoiceTra」のみ参考程度に使用することを認めます。																																															

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
社会学と社会システム		松下 守邦
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	教養（選択）
【授業の目的・ねらい】 ①社会学の基礎的理解、②現代社会の理解、生活の理解、人と社会の関係・社会問題の理解（社会福祉士国試出題基準、大項目）について、社会学専門用語と思考方法を修得する。 【授業全体の内容の概要】 現代社会論、家族、地域社会の領域に関する基礎的学修をする。社会学の学術用語、分析手法を確認、統計データを利用して社会事象の理解を深める。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 社会学の基本的学術用語の説明ができること、社会学応用領域における社会問題について、社会学用語、社会学理論等を利用して課題を把握し考察ができること、以上が本科目の評価基準C要件となる。		
【授業のテーマ・内容】 1 オリエンテーション・講義、テキスト、参考文献、社会学DBの活用・講義 2 社会学の考え方（テキスト第1章） 3 現代社会の捉え方①格差と貧困（テキスト第2章） 4 現代社会の捉え方②恋愛と結婚（テキスト第3章） 5 学習のふり返し・ワークシート 6 現代社会の捉え方③ジェンダー（テキスト第4章） 7 現代社会の捉え方④関係性と暴力（テキスト第5章） 8 現代社会の捉え方⑤摂食障害（テキスト第6章） 9 現代社会の捉え方⑥依存症（テキスト第7章） 10 学習のふり返し・ワークシート 11 現代社会の捉え方⑦権力（テキスト第8章） 12 現代社会の捉え方⑧自殺（テキスト第10章） 13 現代社会の捉え方⑨医療（テキスト第11章） 14 現代社会の捉え方⑩構築主義と心理療法（テキスト第12章） 15 本授業のまとめ、ふり返し		
【テキスト】 中村英代（2017）『社会学ドリル この理不尽な世界の片隅で』新曜社 テキストはドリル形式となっています。 授業で扱う重点項目の補足情報を、授業者 HP に設けますので確認してください。 （https://note.com/momatsu188/） WEB サイト〈note〉SDU 通信課程受講生を検索します。 → 2025 通信 指定保育士養成課程 社会学と社会システム note にある、参照資料（1-4 統合ファイル、PDF）を参照してください。		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 「日本の自殺状況と社会的課題」についてレポートを作成してください。 以下のテキスト、関係資料を読解したことがわかるよう内容をふまえ、指定キーワード（学習用語、以下に指定のもの）を本文に織り込み構成してください。 使用教材 テキスト第10章 自殺 「自殺対策白書 最新版」 「自殺対策白書 平成28年版 第2章 第2節」 pp.59-70. 白書は公立図書館の参考図書、厚生労働省HP 統計情報・白書を確認してください。 キーワード（学術用語として本文に取り入れ理解が示せるよう定義して論述に利用します） [デュルケムの「自殺類型」、岡 檀の「自殺希少地域の人間関係」]		

【レポート作成上の注意点】

テキスト 13 章「レポートの書き方」を確認してください。文末に文献リストを作成します。

指定文字数のカウントは、本文のみ、文献リストは文字数に含みません。

本科目のレポートは、指定教材について学習レポートをまとめます。（ネット掲示板、新聞記事などの文献を引用要約はしないで、指定資料のみを読解し、自分の結論を述べてください）
読解資料

①テキスト 第 10 章 自殺 (2025ths1)

②自殺対策白書 最新版により、近年の概況を知る 該当ページ

第 1 章 自殺の現状 1-6（自殺者数の推移～6 最新版〇年の自殺の状況）

③白書バックナンバーの特集から、自殺の近年の傾向分析を読解する。（2016 年白書）

平成 28 年版 第 2 章 自殺対策の 10 年とこれから 2 節 自殺の状況をめぐる分析

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/jisatsu/jisatsuhakusy
o2016.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/jisatsu/jisatsuhakusy
o2016.html) (2025.01.08 アクセス) (2025ths2)

【レポート作成のための参考文献】

岡 檀「日本の自殺希少地域における自殺予防因子の研究」(2025ths3)

ファイザーヘルスリサーチ振興財団 HP →ライブラリー

→ フォーラム講演録：第18回 ヘルスリサーチフォーラム 2011年度

https://www.health-research.or.jp/library/pdf/forum18/fo18_6_03.pdf (2025.01.08アクセス)

学術レポートの書き方資料 (2025ths4)

1 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
心理学と心理的支援		吉澤 英里
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	教養（選択）
【授業の目的・ねらい】 ①人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。 ②人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。 ③日常生活と心の健康との関係について理解する。 ④心理学の理論を基礎とした心理療法と技法について理解する。 【授業全体の内容の概要】 心理学のテーマは多岐にわたる。そこで、本授業では基礎的な事項に絞り、人の心の仕組みと働きについて学ぶ。さらに、心理学を基礎とした自他理解を深める。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 人の基本的な心の仕組みと機能、心理療法等の支援方法を理解する。		
【授業のテーマ・内容】 1 心理学の歴史と対象について 2 心理学の研究法について 3 心の生物学的基盤について 4 感情について 5 知覚について 6 学習について 7 認知について 8 個人差（パーソナリティ、性格）について 9 人と環境（対人行動、集団）について 10 発達の基礎について（遺伝と環境の相互作用） 11 心の発達の基盤について（発達理論） 12 心の不適応について 13 心理アセスメントについて 14 心理的支援の基本的技法について 15 心理療法について		
【テキスト】 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 2 心理学と心理的支援』中央法規出版		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 同じようなストレスに曝されても、ストレス反応のあらわれ方には個人差があることが知られている。そうした個人差はなぜ／どのように生じるのか。心理学の専門用語を使って説明しなさい。 【レポート作成上の注意点】 テキストには、①認知的評価（心理社会的ストレスモデル）、②性格特性（ハーディネス など）、③ソーシャルサポート、④コーピングが記載されています。①～④からいくつかを選んでまとめましょう。なお、テキスト以外の資料の引用や①～④以外の専門用語の使用も可とします。 レポート作成時に引用・参照した文献は（テキストも含めて）書誌情報を全て記載してください【学習の手引き 参照】。 【レポート作成のための参考文献】 テキストと同じ		

2 年生

【各科目の学習のポイント】

※記載されている教科書から変更になる場合がございます。

※改訂版・新版等が出版された場合、新しいものを使用いたします。

～ 2 年生～

教育原理（西崎毅）	…27
子ども家庭福祉（杉本大輔）	…28
社会的養護Ⅰ（杉本大輔）	…29
子ども家庭支援の心理学（吉澤英里）	…30
子どもの保健（宮崎剛司）	…31
子どもの食と栄養（湯浅頼佳）	…32
保育の計画と評価（吉江幸子）	…33
保育内容演習（健康）（宮崎剛司）	…34
保育内容演習（言葉）（吉江幸子）	…35
保育内容演習（人間関係）（松下守邦）	…36
保育内容演習（表現）（吉江幸子）	…37
保育内容演習（環境）（吉江幸子）	…38
言語表現（千葉聡美）	…39
子どもの健康と安全（宮崎剛司）	…40
障害児保育Ⅰ（坂上俊樹）	…41
社会的養護Ⅱ（杉本大輔）	…43
子育て支援（杉本大輔）	…44
保育ソーシャルワーク（上原正希）	…45
障害児保育Ⅱ（坂上俊樹）	…46
音楽表現Ⅱ（小黑万里子・中島郁子）	…47
造形表現Ⅱ（梅田力）	…48
ソーシャルワークの理論と方法（上原正希）	…50
医学概論（宮崎剛司）	…51

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
教育原理		西崎 毅
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	必修
【授業の目的・ねらい】 教育の理念、並びに教育に関する歴史及び思想を理解する。 【授業全体の内容の概要】 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について、テキストを中心に学修する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 教育の基本概念をはじめ、教育を成り立たせている要素と相互関係、教育及び学校の変遷、学校教育の諸分野に関する基礎的事項について理解できる。		
【授業のテーマ・内容】 1 教育の目的と本質について 2 教育と子どもの成長・発達について 3 社会の変動と教育について 4 日本の教育（歴史と展開）について 5 世界の教育（歴史と展開）について 6 日本の教育制度と行政について 7 主要国の学校制度と教育改革について 8 学校と教師について 9 教育の内容と教育課程について 10 教育の方法と技術について 11 道德教育、特別活動の原理と方法について 12 総合的な学習の時間の原理と方法について 13 外国語活動の原理と方法について 14 生徒指導と教育相談・キャリア教育と進路指導について 15 特別支援教育の原理と方法について		
【テキスト】 安彦忠彦・石堂常世 編著（2020）『最新 教育原理 第2版』勁草書房		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい テキストの「第10章 教育の方法と技術」には、多様な指導方法が紹介されています。変化が激しく将来の予測が難しい現代社会を生きる子どもたちにはどのような資質や能力を育むことが大切でしょうか。また、それらの資質や能力を効果的に育むためには、どのような指導方法が望ましいのでしょうか。テキストの例示にかかわらず、あなたの考えを述べてください。 【レポート作成上の注意点】 ・自分の主張を支える理由（根拠）を必ず記述してください。 【レポート作成のための参考文献】 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（答申） 中央教育審議会 平成28年12月21日		

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
子ども家庭福祉		杉本 大輔
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	必修
【授業の目的・ねらい】 「児童から子どもへ」「児童福祉から子ども家庭福祉へ」と概念の転換が図られた背景を理解しながら、子ども家庭福祉の理念、その法体系やサービス体系、援助活動の現状や課題について総合的に理解する。 【授業全体の内容の概要】 ①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について学ぶ。 ②子どもの人権擁護について学ぶ。 ③子ども家庭福祉の制度や実施体系等について学ぶ。 ④子ども家庭福祉の現状と課題について学ぶ。 ⑤子ども家庭福祉の動向と展望について学ぶ。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解できたか。 ②子どもの人権擁護について理解できたか。 ③子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解できたか。 ④子ども家庭福祉の現状と課題について理解できたか。 ⑤子ども家庭福祉の動向と展望について理解できたか。		
【授業のテーマ・内容】 1 ガイダンス、子ども家庭福祉の理念と概念 2 子ども家庭福祉の歴史的変遷 3 現代社会と子ども家庭福祉 4 子どもの人権擁護の歴史的変遷及び児童の権利に関する条約 5 子どもの人権擁護と現代社会における課題 6 子ども家庭福祉の制度と法体系や実施体系 7 児童福祉施設と子ども家庭福祉の専門職 8 少子化と地域子育て支援及び多様な保育ニーズへの対応 9 母子保健と子どもの健全育成 10 子ども虐待・DV（ドメスティックバイオレンス）とその防止及び社会的養護 11 障害のある子どもへの対応 12 貧困家庭、少年非行等及び外国籍の子どもとその家庭への対応 13 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 14 地域における連携・協働とネットワーク 15 諸外国の動向、まとめ		
【テキスト】 公益財団法人児童育成協会 監修（2023）『新・基本保育シリーズ3 子ども家庭福祉 第2版』中央法規出版		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 「子ども虐待・DVとその防止」について論じなさい。 【レポート作成上の注意点】 ・指定テキスト「第9講 子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止」を参考にしながら、作成して下さい。 ・必ず最後に自分なりの考察や考えを加え、整理して下さい。 【レポート作成のための参考文献】 喜多一憲法監修（2020）『みらい×子どもの福祉ブックス 子ども家庭福祉』みらい		

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
社会的養護 I		杉本 大輔
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	必修
【授業の目的・ねらい】 社会的養護の現状と課題、制度や実施体系等を理解し、児童福祉施設における援助者としての保育士の役割や援助のあり方について必要なことは何かを考える。 【授業全体の内容の概要】 ①現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について学ぶ。 ②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について学ぶ。 ③社会的養護の制度や実施体系等について学ぶ。 ④社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について学ぶ。 ⑤社会的養護の現状と課題について学ぶ。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ①現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解できたか。 ②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解できたか。 ③社会的養護の制度や実施体系等について理解できたか。 ④社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解できたか。 ⑤社会的養護の現状と課題について理解できたか。		
【授業のテーマ・内容】 1 ガイダンス、現代社会における社会的養護の意義（社会的養護の理念と概念） 2 社会的養護の歴史の変遷 3 社会的養護の基本①子どもの人権擁護と社会的養護 4 社会的養護の基本②社会的養護の基本原則 5 社会的養護の基本③社会的養護における保育士等の倫理と責務 6 社会的養護の制度と法体系 7 社会的養護の仕組みと実施体系 8 社会的養護の対象 9 家庭養護と施設養護 10 社会的養護に関わる専門職 11 社会的養護の現状と課題①社会的養護に関する社会的状況 12 社会的養護の現状と課題②施設等の運営管理 13 社会的養護の現状と課題③被措置児童等の虐待防止 14 社会的養護の現状と課題④社会的養護と地域福祉 15 まとめ		
【テキスト】 公益財団法人児童育成協会 監修（2023）『新・基本保育シリーズ6 社会的養護 I 第2版』中央法規出版		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 「社会的養護の対象と支援のあり方」について論じなさい。 【レポート作成上の注意点】 ・指定テキスト「第9講 社会的養護の対象と支援のあり方」を参考にしながら、作成して下さい。 ・必ず最後に自分なりの考察や考えを加え、整理して下さい。 【レポート作成のための参考文献】 喜多一憲法監修（2020）『みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護 I』みらい		

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
子ども家庭支援の心理学		吉澤 英里
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	必修
【授業の目的・ねらい】 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。 【授業全体の内容の概要】 「保育の心理学」の学習を踏まえて、人間の生涯発達過程についての基本を学ぶ。特に児童青年期から青年期、成人期、老年期までの発達課題や危機について学ぶ。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 人間の生涯発達過程及び発達課題上の危機について理解を深める。その上で、実際の支援時に発達心理学の知識を活用するための視点を習得する。		
【授業のテーマ・内容】 1 乳幼児期から学童期前期にかけての発達 2 学童期後期の発達 3 青年期の発達 4 成人期の発達 5 老年期の発達 6 成人期の愛着 7 家族・家庭の意義と機能 8 親子関係・家族関係の理解 9 子育ての経験と親としての育ち 10 子育てを取り巻く社会的状況 11 ライフコースと仕事・子育て 12 多様な家庭とその理解 13 特別な配慮を要する家庭 14 子どもの生活・生育環境とその影響 15 子どもの心の健康に関わる問題		
【テキスト】 白川佳子・福丸由佳 編（2019）『新・基本保育シリーズ9 子ども家庭支援の心理学』中央法規出版		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 子どもが抱える困難を支援する際、子ども個人を対象とするだけでなく、親や家族を対象とすることがある。それはなぜだろうか？ その理由を「家族システム論」に言及しながら説明しなさい。 【レポート作成上の注意点】 「家族システム論」とは何かを忘れずに説明してください。レポート作成には第8講が大いに参考になりますが、第9講以降の内容も関連します。まずは全体を読んで、内容を理解してから、レポート作成に取り組みましょう。 【レポート作成のための参考文献】 沼山博・三浦主博 編著（2020）『新訂 子どもとかかわる人のための心理学 ー保育の心理学、子ども家庭支援の心理学、子どもの理解と援助への扉』萌文書林		

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
子どもの保健		宮崎 剛司
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	必修
【授業の目的・ねらい】 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの心身機能の発達と健康状態を把握する方法について理解する。 3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。 【授業全体の内容の概要】 子どもの保健の意義、子どもの健康と心身機能、発育・発達と保健及び子どもに多い疾病と保育について学習する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 子どもの健康と保健の意義、子どもの発育・発達及び子どもの疾病と保育について説明する。		
【授業のテーマ・内容】 1 子どもの健康と保健の意義（1）保健活動の意義と目的 2 子どもの健康と保健の意義（2）健康の概念と健康指標 3 子どもの健康と保健の意義（3）子どもの健康に関する現状と課題 4 子どもの健康と保健の意義（4）地域における保健活動と児童虐待防止 5 子どもの発育・発達と保健（1）ヒトの成り立ちと身体発育 6 子どもの発育・発達と保健（2）生理機能の発達 7 子どもの発育・発達と保健（3）運動機能の発達 8 前半の総括と学習到達度の確認テスト 9 子どもの精神機能の発達 10 子どもの健康状態の把握（1）健康観察と健康状態の把握 11 子どもの健康状態の把握（2）発育・発達の把握と保護者 12 子どもの疾病と保育（1）子どもの疾病の特徴と主な疾病 13 子どもの疾病と保育（2）子どもの発達と疾病 14 子どもの疾病と保育（3）子どもの疾病の予防と適切な対応 15 総括と後期に向けて		
【テキスト】 遠藤郁夫・三宅捷太 編（2019）『子どもの保健』学建書院		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 子どもの健康状態の把握の方法と健全な発育・発達を促進するためにどのようなことに気をつけたらいいか論じてください。 【レポート作成上の注意点】 ・テキスト・参考文献を必ず活用して作成。 ・身の回りの事例やよくある質問例を追記。 【レポート作成のための参考文献】 大西文子（2022）『子どもの健康と安全』中山書店		

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
子どもの食と栄養		湯浅 頼佳
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	2 日間	必修
【授業の目的・ねらい】 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の問題について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子供たちの食と栄養について理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成 23 年 3 月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成 24 年 3 月、厚生労働省) 【授業全体の内容の概要】 小児期の成長・発達は、最も著しい時期である。とくに子どもの栄養は、生涯を通じての健康の基盤を確立するためにも重要である。子どもの身体発育や運動機能・精神的発達などを充分に理解し、適正な栄養のあり方を学び、実習を行う。 【授業修了時の達成課題(到達目標)】 子どもの栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎であり小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を理解し、また、保育との関連の中で子どもに適切な食事が提供できることの意義と保育における食生活が心の健康にも影響すること、食生活が家族の健康や生活地域との密接な関係があること、食生活を通じて生活全般や環境の望ましい姿を理解することができたか。		
【授業のテーマ・内容】 1 子どもの健康と食生活の意義 (1)子どもの心身の健康と食生活 2 子どもの健康と食生活の意義 (2)子どもの食生活の現状と課題 3 栄養に関する基本的知識 (1)栄養の基本的概念と栄養素の種類と基本 4 栄養に関する基本的知識 (2)食事摂取基準と献立作成・調理の基本 5 子どもの発育・発達と食生活 (1)乳幼児期の授乳・離乳の意義と食生活 6 子どもの発育・発達と食生活 (2)幼児期・学童期の心身の発達と食生活 7 子どもの発育・発達と食生活 (3)生涯発達と食生活 8 食事の基本と内容 (1) 保育における食育の意義・目的と基本的考え方 9 食事の基本と内容 (2)食育の内容と計画及び評価及び食育のための環境 10 食事の基本と内容 (3)地域の関係機関や職員間の連携 11 食事の基本と内容 (4)食生活指導及び食を通じた保護者への支援 12 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 (1) 家庭における食事と栄養 13 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 (2) 児童福祉施設における食事と栄養 14 特別な配慮を要する子供の食と栄養 (1)疾病及び体調不良の子どもへの対応 15 特別な配慮を要する子供の食と栄養 (2)食物アレルギー・障害のある子どもへの対応		
【テキスト】 上田玲子 編著 (2024)『子どもの食生活 第7版 栄養・食育・保育』ななみ書房		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 子どもは大人とは違う目的で栄養を必要としている。現代の子どもが抱える食生活の背景にある問題(こ食、食生活の洋風化等)を例にあげながら考えを述べなさい。 【レポート作成上の注意点】 指定テキストの第1部を良く読み、作成して下さい。 【レポート作成のための参考文献】 『それでも「好きなものだけ」食べさせますか?』NHK 出版		
【スクーリングについて】 離乳食、幼児食、手作りのおやつ等の調理実習を含む演習を実施する。		

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名	
保育の計画と評価		吉江 幸子	
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類	
1 本	なし	必修	
[授業の目的・ねらい] 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。 [授業全体の内容の概要] 保育の計画と評価の基本について学修する。3つの幼児教育施設に共通する保育の内容を理解したうえで、保育所における保育の計画として保育所保育指針を中心に全体的な計画と指導計画作成の方法を理解する。保育所における保育の評価について学修する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 保育の計画と評価の基本について理解している。保育所における保育の計画について理解している。保育所における保育の評価について理解している。			
[授業のテーマ・内容] 1 保育の計画と評価の基本（カリキュラムの基礎理論） 2 保育における計画と評価の意義 3 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の循環による保育の質の向上 4 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容及び社会的背景 5 保育所保育指針における保育の目標と計画の基本的考え方 6 全体的な計画と指導計画の関係性 7 全体的な計画の作成 8 指導計画（長期的）の作成 9 指導計画（短期的）の作成 10 指導計画作成上の留意事項 11 計画に基づく保育の柔軟な展開 12 保育の記録及び省察 13 保育士及び保育所の自己評価 14 保育の質向上に向けた改善の取組 15 生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録、まとめ			
【テキスト】 岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正 著（2024）『教育課程・保育の計画と評価 書いて学べる指導計画』第2版発行 萌文書林			
[レポート課題について] 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 「保育の『全体的な計画』と『指導計画』の関連について」論じなさい。 [レポート作成上の注意点] ・指定テキストをもとに、保育の「全体的な計画」について述べてから「指導計画」との関連を論じる必要があります。 ・特に「<u>全体的な計画</u>」という言葉は、厚生労働省「保育所保育指針」「保育所保育指針解説書」を読むと理解しやすくなります。 ・参考文献、引用文献は必ず記入すること。 [レポート作成のための参考文献] 1. 厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説書』 2. 文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説書』			

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
保育内容演習（健康）		宮崎 剛司
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	必修
【授業の目的・ねらい】 1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。 2. 子どもの発達を保育内容の視点・領域を通して捉え、子どもの理解を深めながら「健康」について具体的に学ぶ。さらに、保育活動における保育士の役割、周囲の資源の活用、保育過程の実際について理解を深める。 【授業全体の内容の概要】 保育内容の視点・領域を関連付けて学ぶことにより、子どもの発達を理解し、健康や安全な生活のための支援方法を学ぶ。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 健やかな子どもの姿を理解し、健康を考えた生活や活動について具体的に述べ、実施する。 子どもの健康の必要性和健康を守る力を育むことについて討議・発表する。		
【授業のテーマ・内容】 1 ガイダンス。保育内容における子どもの健康・健康の概念 2 子どもの成長・発達・特徴と健やかな子ども 3 子どもの健康生活と習慣①（生理的欲求と習慣） 4 子どもの健康生活と習慣②（基本的生活習慣の形成） 5 健康的な活動と環境構成①（健康的な活動の計画） 6 健康的な活動と環境構成②（健康的な活動の指導） 7 事故防止と安全教育 8 子どもの健康における保育者の役割、まとめ		
【テキスト】 谷田貝公明 監著（2018）『コンパクト版 保育内容シリーズ①『健康』』一藝社		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 子どもの年齢を設定し、要領や指針に示されている 領域「健康」のねらいや内容と関連させた健康的な遊び（活動）を考えレポートしてください。 以下の項目を盛り込み記述してください。 1. 遊びのねらい、対象とする子どもの一般的成長・発達状況。 2. 遊びの題名、具体的な遊びの要領、保育者としての留意事項。 【レポート作成上の注意点】 - 対象とする子どもの年齢は1.2.3.4 歳から選択。 - 実行してみた場合には、その振り返りでもよい。 【レポート作成のための参考文献】 保育内容「健康」や領域「健康」など子どもの遊びに関連した表題の文献全般。		

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名	
保育内容演習（言葉）		吉江 幸子	
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類	
なし	2 日間	必修	
【授業の目的・ねらい】 養護と教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。子どもの発達を、保育所保育指針における保育の内容（乳児保育、1 歳以上 3 歳未満児、3 歳以上児の保育に関する内容とねらい）を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら具体的に理解する。子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程の実際について理解する。			
【授業全体の内容の概要】 保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、援助の関わりについて具体的に学修する。保育所保育指針に示す乳児保育の 3 つの視点や保育における領域「言葉」について学修する。			
【授業修了時の達成課題（到達目標）】 保育を展開していくための方法や技術、援助の関わりについて具体的に理解する。保育所保育指針に示す乳児保育の 3 つの視点や保育における領域「言葉」について理解する。			
【授業のテーマ・内容】 1 子どものことばと育ち 2 領域「言葉」とは何か-乳幼児期のことばの発達- 3 子どものことばと保育者-どう捉え、どう関わるか- 4 うたや触れ合いを楽しむ（わらべうた、うた遊び） 5 絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ①（児童文化財） 6 絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ②（児童文化財） 7 絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ③（児童文化財） 8 特別な配慮が必要な子どもとの関わり まとめ 製作したものを発表			
【テキスト】 ・厚生労働省（2017）『保育所保育指針＜平成 29 年告示＞』フレーベル館 ・厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説書平成 30 年 3 月』フレーベル館			
【スクーリングについて】 ・指定テキストを持参してください（このテキストは「保育内容演習（表現）」においても使用）。 ・絵本などの児童文化財を持っている方は 1 冊持参すると参考になります。 （必須ではありません）。 ・スクーリングでは、1 枚の画用紙で作る小さな手作り絵本（8 ページもの）を製作します。			
＜受講生が準備するもの＞ ①はさみ、のり、色鉛筆やクレヨン（100 均ストアで構いません）を持参してください。 ※なお、1 年次のスクーリング時に手作り絵本の見本をご紹介しますので参考にしてください。			

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
保育内容演習（人間関係）		松下 守邦
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
なし	2 日間	必修
【授業の目的・ねらい】 養護と教育に関わる保育の内容が、それぞれ関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。子どもの発達について、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育の5つの領域を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育内容を学修する。 【授業全体の内容の概要】 幼児教育の基本・乳幼児期の発達、子どもと保育者、遊びと人間関係・家庭生活と子ども、幼児教育と課題について具体的に学ぶ。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 保育の領域「人間関係」について、子どもの適切な理解を深めながら保育内容を具体的に理解できること、テキスト課題「考えてみよう」を識別し列挙できること、以上が本科目の評価基準C要件となる。		
【授業のテーマ・内容】 1 幼児教育の基本・乳幼児期の発達①・心理学的接近と教育学的接近・講義 2 幼児教育の基本・乳幼児期の発達②・視聴覚教材から学ぶ・講義、事例研究 3 子どもと保育者①・社会学的接近・講義 4 子どもと保育者②・保育学的接近・講義 5 遊びと人間関係、家庭生活と子ども①・社会学的接近・講義 6 遊びと人間関係、家庭生活と子ども②・視聴覚教材から学ぶ・ワークシート 7 幼児教育と課題、まとめ①・エピソード記述法・講義 8 幼児教育と課題、まとめ②・保育学・ふり返り		
【テキスト】 寺見陽子 編（2023）『子どもの心の育ちと人間関係 事例と図解で学ぶ保育実践 改訂新版』教育情報出版 【参考文献】 ・厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』 - こども家庭庁 HP、政策のカテゴリー内、保育のページ、「保育所保育指針 等」のセクションを参照します。 - 子ども家庭庁 〉政策 〉保育 、「保育所保育指針 等」 https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/eb316dce-fa78-48b4-90cc-da85228387c2/f4758db1/20231013-policies-hoiku-shishin-h30-bunkatsu-1_24.pdf（2025.01.08 アクセス） ・鯨岡峻ほか（2013）『なぜエピソード記述なのか』東京大学出版会 ・戸田有一ほか（2011）『保育における感情労働-保育者の専門性を考える視点として-』ミネルヴァ書房		
【スクーリングについて】 スクーリングではテキスト学習、アンケートソフト（Microsoft 社 Forms）回答入力をおこないます。テキスト、スマホ（インターネット接続デバイス、充電器）を持参してください。		

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名	
保育内容演習（表現）		吉江 幸子	
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類	
なし	2 日間	必修	
【授業の目的・ねらい】 養護と教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。子どもの発達を、保育所保育指針における保育の内容（乳児保育、1 歳以上 3 歳未満児、3 歳以上児の保育に関する内容とねらい）を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら具体的に理解する。子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。子どもの発達過程に即して具体的な保育場면을想定しながら環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程の実際について理解する。			
【授業全体の内容の概要】 保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、援助の関わりについて具体的に学修する。保育所保育指針に示す乳児保育の 3 つの視点や保育における領域「表現」について学修する。			
【授業修了時の達成課題（到達目標）】 保育を展開していくための方法や技術、援助の関わりについて具体的に理解する。保育所保育指針に示す乳児保育の 3 つの視点や保育における領域「表現」について理解する。			
【授業のテーマ・内容】 1 乳幼児の表現の発達 2 保育における領域「表現」 3 子どもの表現が生まれる源泉 4 表現の基礎としてのこころとからだ 5 遊びにおける子どもの多様な表現 6 表現された子どもの世界 7 子どもの表現と保育者の援助 8 子どもの表現が育つ環境 まとめ 製作したものを発表			
【テキスト】 ・厚生労働省（2017）『保育所保育指針＜平成 29 年告示＞』フレーベル館 ・厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説書平成 30 年 3 月』フレーベル館			
【スクーリングについて】 ・指定テキストを持参してください（このテキストは「保育内容演習（言葉）」においても使用）。 ・スクーリングでは「スケッチブックシアター」を製作します。 ・絵本またはこどもの歌の本など題材にしたい本を持参すると参考になります。 <受講生が準備するもの> ①スケッチブック 1 冊（100 均ストア／サイズ 345 mm×247 mm、または 257 mm×182 mm） ②はさみ・のり・クレヨンや色鉛筆・黒マジック 1 本（太字）を持参してください。 ※なお、1 年次のスクーリング時にスケッチブックシアターの見本をご紹介しますので参考にしてください。			

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名	
保育内容演習（環境）		吉江 幸子	
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類	
1 本	なし	必修	
【授業の目的・ねらい】 養護と教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。子どもの発達を、保育所保育指針における保育の内容（乳児保育、1歳以上3歳未満児、3歳以上児の保育に関する内容とねらい）を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら具体的に理解する。子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程の実際について理解する。			
【授業全体の内容の概要】 保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、援助の関わりについて具体的に学修する。保育所保育指針に示す乳児保育の3つの視点や保育における領域「環境」について学修する。			
【授業修了時の達成課題（到達目標）】 保育を展開していくための方法や技術、援助の関わりについて具体的に理解する。 保育所保育指針に示す乳児保育の3つの視点や保育における領域「環境」について理解する。			
【授業のテーマ・内容】 1 養護と教育の一体的な関わりについて 2 保育と環境 3 領域「環境」の捉え方（乳児保育の3つの視点及び1歳以上3歳未満児、3歳以上児の領域） 4 保育環境の構成 5 友だちや保育者とともに育つ（人的環境） 6 豊かな生活を育む環境をデザインする（物的環境） 7 生き物や植物、自然の事象に関心を持つ（自然環境） 8 自分を取り巻く社会の文化にふれる（社会的環境） まとめ			
【テキスト】 秋田喜代美 他編（2018）『新時代の保育双書 保育内容環境 第3版』株式会社みらい			
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 「子どもにとっての環境と、保育内容の領域『環境』の関係性」について論じなさい。			
【レポート作成上の注意点】 ・指定テキストを参照すること。 ・今日の子どもを取り巻く環境の課題を示し、領域「環境」が果たす役割を述べること。 ・参考文献、引用文献は指定テキストを含め、必ず記入すること。			
【レポート作成のための参考文献】 1．厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説書』 2．文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説書』			

2 年生

科 目 名		担当教員名
言語表現		千葉 聡美
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	必修
【授業の目的・ねらい】 保育者としての言語表現技術の基礎的知識・技法及び入門的言語表現教材の開発と実技を修得することを目的とし、演習をととして児童文化財の活用と展開について考える。 【授業全体の内容の概要】 ①子どもの発達と絵本、手遊び等に関する知識と技術 ②子ども自らが児童文化財に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術 ③子どもの経験や様々な表現活動と児童文化等とを結びつける遊びの展開 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 子どもの発達と児童文化財に関する知識と技術を修得できたか。		
【授業のテーマ・内容】 1 子どもの育ちと言葉 2 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング 1 3 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング 2 4 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング 3 5 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング 4 6 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング 5 7 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング 6 8 子ども自らが児童文化財に親しむ経験と保育の環境 1 9 子ども自らが児童文化財に親しむ経験と保育の環境 2 10 子ども自らが児童文化財に親しむ経験と保育の環境 3 11 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等を結びつける遊びの展開 1 12 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等を結びつける遊びの展開 2 13 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等を結びつける遊びの展開 3 14 学生による言語の展開 1 15 学生による言語の展開 2		
【テキスト】 赤羽根有里子・鈴木穂波 編（2018）『新時代の保育双書 保育内容 ことば 第3版』株式会社みらい		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 『保育実技において、幼児の言葉を豊かにするための児童文化財の活用について述べなさい。』 【レポート作成上の注意点】 ・指定テキストを参考にしながら、作成して下さい。 ・必ず最後に自分なりの考察や考えを加え、整理して下さい。 【レポート作成のための参考文献】 ・赤羽根有里子・鈴木穂波編（2018）『保育内容 ことば 第3版』株式会社みらい ・柴崎正行編（2010）『保育内容 言葉』ミネルヴァ書房		

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
子どもの健康と安全		宮崎 剛司
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
なし	2 日間	必修
【授業の目的・ねらい】 1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 近年の子どもを取り巻く社会状況・指針を踏まえ、衛生・安全管理やその対策について学び、実施に向けた体制づくり、活動計画・評価等について具体的に理解する。 3. 子ども保健の基本を踏まえ、子どもの心身の状況や発達に即した適切な対応について具体的に理解する。 【授業全体の内容の概要】 子ども保健の基本的な考え方を理解し、子どもの健康と安全な生活のための支援方法を学ぶ。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 子どもを取り巻く社会状況・指針を把握し、衛生・安全管理、その実施方法について具体的に述べる。 子どもの体調把握の方法や防衛力・健康を守る力を育むことについて討議・発表する。		
【授業のテーマ・内容】 1 ガイダンス。子どもを取り巻く社会状況と子ども保健 2 保育環境と衛生管理 3 保育における安全管理（事故防止、安全対策、危機管理、災害対策） 4 子どもの健康に関する適切な対応①（保健的対応） 5 子どもの健康に関する適切な対応②（体調不良と対応） 6 子どもの健康に関する適切な対応③（感染症対策） 7 子どもの健康管理・安全管理の実施体制 （体制・計画づくり、地域・関係機関・制度等との連携） 8 子どもの健康・安全にかかわる保育者の役割、まとめ		
【テキスト】 大西文子 編著（2022）『子どもの健康と安全 改訂第2版』中山書店		
【スクーリングについて】 スクーリング時には、テキストを使用します。忘れないようにして下さい。		

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
障害児保育 I		坂上 俊樹
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	2 日間	必修
【授業の目的・ねらい】 1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。 【授業全体の内容の概要】 障害児保育を支える理念、障害の理解と保育における発達の援助、障害児保育の実際、家庭及び関係機関との連携、障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題について学修する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 障害児保育を支える理念、障害の理解と保育における発達の援助、障害児保育の実際、家庭及び関係機関との連携、障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題について具体的に述べる。 【授業のテーマ・内容】 1. 「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷。障害のある子どもの地域社会への参加・包容（インクルージョン）の推進及び合理的配慮の理解と障害児保育の基本 2. 障害の理解と保育における発達の援助 （1）肢体不自由児の理解と援助 3. 障害の理解と保育における発達の援助 （2）知的障害児の理解と援助 4. 障害の理解と保育における発達の援助 （3）視覚障害・聴覚障害・言語障害児等の理解と援助 5. 障害の理解と保育における発達の援助 （4）発達障害児の理解と援助①（ADHD—注意欠如多動性障害、LD—学習障害等） 6. 障害の理解と保育における発達の援助 （5）発達障害児の理解と援助②（PDD—広汎性発達障害等）、及びその他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助 7. 障害の理解と保育における発達の援助 （6）重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助 8. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際 （1）保育課程に基づく指導計画及び個別の支援計画の作成 9. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際 （2）個々の発達を促す生活や遊びの環境、及び子ども同士の関わり合いと育ち合い 10. 障害児及びその他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際 （3）障害児保育における子どもの健康と安全及び職員間の連携・協働 11. 家庭及び自治体・関係機関との連携 （1）保護者や家族に対する理解と援助、及び保護者間の交流や支え合いの意義とその支援 12. 家庭及び自治体・関係機関との連携 （2）保育支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関（保育所、児童発達支援センター等）の連携・協働 13. 障害児及びその他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題 （1）保健医療における現状と課題 14. 障害児及びその他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題 （2）福祉・教育における現状と課題 15. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題 （3）支援の場の広がりつつなかり 【テキスト】 渡部信一・本郷一夫・無藤隆 編著（2014） 『新 保育ライブラリ 障害児保育[新版] 保育の内容・方法を知る』北大路書房		

【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい

今日、障害児保育は発展・充実していますが、ここに至るまでの歴史的な変遷のポイントを簡潔にまとめなさい。その上で、障害児保育の3つの形態（分離保育・統合保育・交流保育）の特徴とそれぞれのメリット・デメリットを述べなさい。

【レポート作成上の注意点】

- ・主に、指定テキスト第4章「障害児の生活に関する保育方法」を参考にしながら、作成してください。
- ・必ず最後に自分なりの考察や考えを加えて整理してください。

【レポート作成のための参考文献】

なし

【スクーリングについて】

スクーリング時には、テキストを使用します。忘れないようにしてください。

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
社会的養護Ⅱ		杉本 大輔
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
なし	2 日間	必修
【授業の目的・ねらい】 保育士として実践に必要な社会的養護に関わる知識・技術や相談援助の知識・技術について、事例研究やロールプレイ等を通して自己覚知を行う。 【授業全体の内容の概要】 ①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。 ②施設養護及び家庭養護の実際について学ぶ。 ③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について学ぶ。 ④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について学ぶ。 ⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について学ぶ。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解が深まったか。 ②施設養護及び家庭養護の実際について理解できたか。 ③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解できたか。 ④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できたか。 ⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できたか。		
【授業のテーマ・内容】 1 ガイダンス、社会的養護における子どもの理解 2 社会的養護の内容①日常生活支援 3 社会的養護の内容②治療的支援 4 社会的養護の内容③自立支援 5 社会的養護の実際①施設養護の生活特性及び実際 6 社会的養護の実際②家庭養護の生活特性及び実際 7 アセスメントと個別支援計画の作成 8 記録及び自己評価 9 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践 10 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践 11 社会的養護における家庭支援 12 社会的養護の課題と展望 13 社会的養護に関わる事例研究 14 社会的養護に関わる事例に基づくロールプレイ 15 まとめ		
【テキスト】 公益財団法人児童育成協会 監修（2019）『新・基本保育シリーズ 18 社会的養護Ⅱ』 中央法規出版		
【スクーリングについて】 スクーリング時には、テキストを使用します。忘れないようにして下さい。		

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
子育て支援		杉本 大輔
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
なし	2 日間	必修
【授業の目的・ねらい】 保育士として実践に必要な保育相談支援や子育て支援に関わる知識・技術について、事例研究やロールプレイ等を通して自己覚知を行う。 【授業全体の内容の概要】 ①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に学ぶ。 ②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に学ぶ。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開について理解を深めたか。 ②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について理解を深めたか。		
【授業のテーマ・内容】 1 ガイダンス、子育て支援の特性①子どもの保育とともに行う保護者の支援 2 子育て支援の特性②日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 3 子育て支援の特性③保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 4 子育て支援の特性④子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供 5 子育て支援の展開①子ども及び保護者の状況・状態の把握 6 子育て支援の展開②支援計画と環境の構成 7 子育て支援の展開③支援の実践・記録・評価・カンファレンス及び職員間の連携・協働 8 子育て支援の展開④社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 9 子育て支援とその実際（内容・方法・技術）①保育所等における支援 10 子育て支援とその実際（内容・方法・技術）②地域の子育て家庭に対する支援 11 子育て支援とその実際（内容・方法・技術）③障害のある子ども及びその家庭に対する支援 12 子育て支援とその実際（内容・方法・技術）④特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 13 子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑤子ども虐待の予防と対応 14 子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑥要保護児童等の家庭に対する支援 15 子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑦多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解、まとめ		
【テキスト】 公益財団法人児童育成協会 監修（2019）『新・基本保育シリーズ 19 子育て支援』中央法規出版		
【スクーリングについて】 スクーリング時には、テキストを使用します。忘れないようにして下さい。		

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
保育ソーシャルワーク		上原 正希
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
なし	2 日間	選択必修（※本学必得）
【授業の目的・ねらい】 保育士に必要なソーシャルワークの視点について、知識として学びます。 【授業全体の内容の概要】 ソーシャルワークについて、事例を交え学びます。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 児童の支援に、なぜソーシャルワークが必要なのか事例を交え述べることができる。		
【授業のテーマ・内容】 1 ソーシャルワークとは 2 保育とソーシャルワーク 3 ソーシャルワークの意味と種類 4 ソーシャルワークの意味と種類 5 ケースワークの基礎知識 6 ケースワーク演習 その1 7 ケースワーク演習 その2 8 グループワークの基礎知識 9 グループワーク演習 その1 10 グループワーク演習 その2 11 コミュニティワークの基礎知識 12 コミュニティワーク演習 その1 13 コミュニティワーク演習 その2 14 ソーシャルワークの動向 15 ソーシャルワークの課題		
【テキスト】 杉本敏夫監修（2023）『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（共通）』ミネルヴァ書房		
【スクーリングについて】 演習を通して自分の考えや他者の考えを比較・検討し、子どもの支援を含め、多様性の尊重ができる、相手の立場に立った考えをベースにしたコミュニケーションの力を身につけられるよう、幅広い視点から考察を深める。		

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
障害児保育Ⅱ		坂上 俊樹
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	選択必修
【授業の目的・ねらい】 障害のある子どもの保育に携わる保育士に必要なさまざまな援助技能を、シミュレーション学習をとおして習得するとともに、子ども 1 人ひとりの発達課題と生活課題を明らかにすることによって保育場面で援助技能を適切に活用して援助することを理解できるようになる。 【授業全体の内容の概要】 統合保育場面や家族支援の事例に基づき、ロールプレイ等のシミュレーション学習を通して、遊びや対人関係の援助、日常生活動作等に関する具体的な保育技術、保育計画の立案や面接・記録の技法の実際を学び、保育士としての心構えを取得する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 障害のあるなしにとらわれない視点から保育実践を行うことのできる保育士になるために、必要な価値・知識・技術について具体的に述べる。		
【授業のテーマ・内容】 1. オリエンテーション 2. 発達障害とは何か 3. 高機能自閉症スペクトラム（アスペルガー症候群を含む）・学習障害・注意欠陥多動性障害の定義と診断基準 4. 高機能自閉症スペクトラム（アスペルガー症候群を含む）・学習障害・注意欠陥多動性障害の原因や見分け方 5. 高機能自閉症スペクトラム児の特徴的な心理・生理等の症状 6. 学習障害児の特徴的な心理・生理等の症状 7. 注意欠陥多動性障害児の特徴的な心理・生理等の症状 8. 知的障害を伴う自閉症スペクトラム児との上手なつきあい方 9. アスペルガー症候群等の高機能自閉症スペクトラム児との上手なつき合い方 10. 学習障害児との上手なつき合い方 11. 注意欠陥多動性障害児との上手なつき合い方 12. 発達障害児の発達や行動特徴等についての実態把握の方法 13. 個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成 14. 発達障害児に対する職業教育と進路指導の在り方 15. 発達障害児を取り巻く環境及び支援の方法		
【テキスト】 松井剛太・七木田敦 編著（2023）『実践事例を通して具体的ななかかわりを学ぶ 保育現場における特別支援』教育情報出版		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 障害のある子どもの保護者を支援する際の、留意点と基本的な考え方について述べなさい。 【レポート作成上の注意点】 ・主に、指定テキスト 6 章「家庭や専門機関との連携」を参考にしながら、作成してください。 ・必ず最後に自分なりの考察や考えを加えて整理してください。 【レポート作成のための参考文献】 ・渡部信一・本郷一夫・無藤隆 編著（2014） 『新 保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 障害児保育〔新版〕』北大路書房		

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名	
音楽表現Ⅱ		小黒 万里子・中島 郁子	
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類	
1 本	なし	選択必修	
【授業の目的・ねらい】 音楽表現Ⅰで学修した内容を土台として、子ども(障がい児含む)の生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。保育における教材等の活用及び作成と、身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。 【授業全体の内容の概要】 保育の内容を理解し、子ども(障がい児含む)の遊びを豊かに展開するために必要な音楽表現の知識、技術を学修する。人の声や音楽等に親しむための保育の環境について実践的に学修する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 保育の内容を理解し、子ども(障がい児含む)の遊びを豊かに展開するために必要な音楽表現の知識、技術を習得する。音楽表現Ⅰで学修した内容をさらに追及し、実践的に習得する。			
【授業のテーマ・内容】 1 保育の内容「表現」の中の音楽表現と応用 2 音・動き・リズム・ことばの音楽表現と応用①（歌と楽器） 3 音・動き・リズム・ことばの音楽表現と応用②（歌と楽器） 4 音・動き・リズム・ことばの音楽表現と応用③（歌と楽器） 5 音・動き・リズム・ことばの音楽表現と応用④（歌と楽器） 6 音・動き・リズム・ことばの音楽表現と応用⑤（歌と楽器） 7 音・動き・リズム・ことばの音楽表現と応用⑥（歌と楽器） 8 音・動き・リズム・ことばの音楽表現と応用⑦（歌と楽器） 9 音・動き・リズム・ことばの音楽表現と応用⑧（歌と楽器） 10 音・動き・リズム・ことばの音楽表現と応用⑨（歌と楽器） 11 音・動き・リズム・ことばの音楽表現と応用⑩（歌と楽器） 12 てあそび歌、わらべ歌と指導計画の実際① 13 てあそび歌、わらべ歌と指導計画の実際② 14 てあそび歌、わらべ歌と指導計画の実際③ 15 てあそび歌、わらべ歌と指導計画の実際・発表			
【テキスト】 「音楽表現Ⅰ」のテキストを継続して使用します。			
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 障害児に対する音楽の効果について記載しなさい。 【レポート作成上の注意点】 自身の経験なども含め記載しなさい。			
【履修にあたっての注意事項】 1 年次科目「音楽表現Ⅰ」で学修した内容を土台として、「音楽表現Ⅰ」で学修した内容をさらに追及し、実践的に修得することを到達目標としています。1 年次科目「音楽表現Ⅰ」を学修されていることを前提とします。「音楽表現Ⅰ」スクーリングを欠席された方の履修を制限するものではありませんが、レポート課題や試験においては、「音楽表現Ⅰ」で取り扱う内容を理解していることを想定した出題となります。			

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名	
造形表現Ⅱ		梅田 力	
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類	
1 本 (10 作品の中から 4 作品を制作・ 撮影して提出。【レポート課題 について】を参照)	なし	選択必修	
【授業の目的・ねらい】 造形表現Ⅰで習得した技術の向上を目指し、創作的表現活動に取り組む。身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。			
【授業全体の内容の概要】 「感じる・考える・工夫する」造形活動を支えるための素材を活用した造形表現を学習する。身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に学習する。			
【授業修了時の達成課題（到達目標）】 「感じる・考える・工夫する」造形活動を支えるための、素材を活用した造形表現の知識、技術を習得する。身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。			
【授業のテーマ・内容】 1 授業概要および課題の理解 2 幼児造形教育への実践 3 平面技法の基本① 4 平面技法の基本② 5 平面技法の基本③ 6 平面技法の基本④ 7 平面技法の基本⑤ 8 平面技法の基本⑥ 9 平面技法の応用① 10 平面技法の応用② 11 平面技法の応用③ 12 平面技法の応用④ 13 立体造形① 14 立体造形② 15 立体造形③			
【テキスト】 樋口一成 編著（2018）『幼児造形の基礎 ―乳幼児の造形表現と造形教材―』萌文書林			
【レポート課題について】 【授業のテーマ・内容】 幼児造形の基礎― 乳幼児の造形表現と造形教育― 萌文書林 樋口一成（編）、第4章幼児造形教育への実践（pp99-206）を参考にし、以下の作品を制作する。また、作品は写真に撮影したものをレポートとして提出する（提出方法は下記参照の事）。 <課題（作品制作）> * 合計 4 作品を制作する。 （平面技法の基礎から 2 作品、平面技法の応用、立体造形は各 1 作品を制作する事） 1）平面技法の基本①－⑥（pp112-119）を参照、技法を「2 つ」選んで、2 作品制作。 2）平面技法の応用①－④(pp120-129）を参照、技法を 1 つ選び制作する。 3）立体造形①－③(pp134-145）を参照、任意の技法を 1 つ選び制作する。			

< 提出方法 >

提出方法は①紙に印刷して郵送、もしくは②データ添付でメールアドレスに送信する。

※①か②どちらかの方法を選んで提出する。

①印刷して提出

作品を撮影した画像をA4サイズの下紙に印刷して、郵送で生涯学習課宛てに提出する。

(第4種郵便での発送可。発送方法は「学習の手引き」参照。)

印刷した下紙の裏に氏名・学籍番号、課題名(例「デカルコマニー」)を書くこと。

撮影の際は、印刷に耐えられる画質で撮影する。(印刷画像が荒くならないように注意)なおA4一枚に4作品をまとめて印刷するのは不可とする。(下紙1枚につき1作品。多方向から撮影し、複数枚の添付可。白黒での撮影・印刷は不可)

②メールアドレスに添付データで提出

制作した作品を撮影したものをjpegなどの形式で保存し、レポート提出用のメールアドレスへ添付ファイルで提出する。

※ファイル名は「フロッタージュ」のように技法名を書く。

※メールタイトルに学籍番号と氏名を明記すること。

レポート提出メールアドレス report.Childcare@seisa.dohto.ac.jp

【レポート(作品)作成上の注意点】

材料については、造形I同様、各自で素材を揃える。高価な画材を揃える必要はない。

100円均一や近隣のホームセンター、文具店を利用する事を推奨する。自身が生活する環境では、どんな素材が手に入るか、ぜひリサーチしてみてほしい。実際に画材を見に行き、あれこれ授業を想像しながら、画材を揃えることは、充実した造形活動を行うために大切な事前準備となる。(テキストp20に該当)

【レポート作成のための参考文献】

幼児造形の基礎―乳幼児の造形表現と造形教育― 萌文書林 樋口一成(編)

*第4章幼児造形教育への実践(pp99-206)が対象ですが、その他のページも保育実践の場でも大変参考になるので、ぜひ積極的に読んでみてください。

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
ソーシャルワークの理論と方法		上原 正希
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	選択必修
【授業の目的・ねらい】 保育士に必要なソーシャルワークの技術について、知識として学びます。 【授業全体の内容の概要】 ソーシャルワークの理論について、広く学びます。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 児童の支援に、必要なソーシャルワークスキルについて述べるができる。		
【授業のテーマ・内容】 1 相談援助の理論 2 相談援助の意義 3 相談援助の機能 4 相談援助とソーシャルワーク 5 保育とソーシャルワーク 6 相談援助の対象 7 相談援助の過程 8 相談援助の技術・アプローチ 9 相談援助の計画・記録・評価 10 相談援助の関係機関との協働 11 相談援助の多様な専門職との連携 12 相談援助の社会資源の活用、調整、開発 13 ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析 14 虐待の予防と対応等の事例分析 15 障害のある子どもとその保護者への支援等の事例分析		
【テキスト】 杉本敏夫監修（2023）『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（共通）』ミネルヴァ書房		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 保育士はどのような場合でソーシャルワークを活用できそうか記載しなさい。 【レポート作成上の注意点】 教科書参照 【レポート作成のための参考文献】 特になし		

2 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
医学概論		宮崎 剛司
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	教養
【授業の目的・ねらい】 人の体の成り立ちやしくみ、さまざまな疾病について、人の成長過程における老化や日常生活との関係を踏まえて理解を深める。 【授業全体の内容の概要】 人体の構造と生理機能を臓器と関連させて学習し、正常と病的状態を比較しながら代表的な疾患や障害について理解する。特に将来致命的となる疾患や注目されている疾患については予防対策も含めて講義を行ない、福祉に必要な知識を身につける。また、I C Fの基本的な考え方やリハビリテーションの概念についても学習する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 社会福祉職に求められる基本的な医学知識を説明する。		
【授業のテーマ・内容】 1 医学と福祉について 2 人の成長・発達と老化①心身の成長発達 3 人の成長・発達と老化②老化 4 人の成長・発達と老化③老年症候群 5 身体構造と心身機能の概要①（骨・筋肉・消化器・循環器） 6 身体構造と心身機能の概要②（呼吸器・血液・リンパ・泌尿器・生殖器） 7 身体構造と心身機能の概要③（脳・脊髄・神経） 8 前半のまとめと学習到達度の確認テスト 9 疾病の概要①（悪性腫瘍・脳血管疾患・心疾患・高血圧症・呼吸器疾患） 10 疾病の概要②（腎疾患・泌尿器疾患・骨関節疾患・感染症・難病） 11 疾病の概要③（生活習慣病と健康のとらえ方） 12 障害の概要① I C Fの基本的考え方 13 障害の概要② 各障害 14 リハビリテーションの概念 15 総括と今後の課題		
【テキスト】 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 1 医学概論』中央法規出版		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい わが国において、死因が高く日常的に多くみられる疾患を、下記①～③から一つを選択。選択した（ ）内の疾患二つについて、疾患の概要とその器官の構造や機能とを関連させてレポートしてください。 ①悪性腫瘍（肺がん、大腸がん、胃がん、乳がん） ②脳血管疾患（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血） ③心疾患（心筋梗塞、狭心症、不整脈） 【レポート作成上の注意点】 ・疾患別にまとめる。 ・テキスト以外に活用した文献を明記。 【レポート作成のための参考文献】 『社会福祉士養成テキストブック』シリーズ ミネルヴァ書房		

3 年生

【各科目の学習のポイント】

※記載されている教科書から変更になる場合がございます。

※改訂版・新版等が出版された場合、新しいものを使用いたします。

～ 3 年生～

子ども家庭支援論（杉本大輔）…53

保育実習Ⅰ（湯浅頼佳）…54

保育実習指導Ⅰ（湯浅頼佳）…55

保育実践演習（吉江幸子）…56

保育実習Ⅱ（湯浅頼佳）…57

保育実習Ⅲ（湯浅頼佳）…58

保育実習指導Ⅱ（湯浅頼佳）…59

保育実習指導Ⅲ（湯浅頼佳）…60

3 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
子ども家庭支援論		杉本 大輔
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	なし	必修
【授業の目的・ねらい】 子育てを行う家庭が抱える諸課題・諸問題を明確に把握し、各家庭がそれらの諸課題に向き合い、子育てを行うための支援の方法を理解する。 【授業全体の内容の概要】 ・子ども家庭支援の意義と役割 ・保育士による子ども家庭支援の意義と基本 ・子育て家庭に対する支援の体制 ・多様な支援の展開と関係機関との連携 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ・子育て家庭に関する支援の意義、目的を理解する。 ・保育の専門性を生かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ・子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子供支援の現状、課題について理解する。		
【授業のテーマ・内容】 1 子ども家庭支援の意義と必要性 2 子ども家庭支援の目的と機能 3 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 4 子どもの育ちの喜びの共有 5 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 6 保育士に求められる基本的態度（バイスティックの7原則を用いたかわりの方法） 7 家庭の状況に応じた支援（ひとり親家庭、ステップファミリー、外国にルーツを持つ家庭、里親家庭など） 8 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 9 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 10 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 11 子ども家庭支援の内容と対象 12 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 13 地域の子育て家庭への支援 14 要保護児童等及びその家庭に対する支援 15 子ども家庭支援に関する現状と課題		
【テキスト】 阿部和子（2020）『子ども家庭支援論』萌文書林		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 保育所における子育て支援において、家庭への支援として重要な事柄について、テキストの事例を引用してレポートすること。 【レポート作成上の注意点】 テキストの事例を引用すること 【レポート作成のための参考文献】 橋本好市 直島正樹（2012）『保育実践に求められるソーシャルワーク ー子どもと保護者のための相談援助・保育相談支援』ミネルヴァ書房		

3 年生

科 目 名	担 当 教 員 名
保育実習Ⅰ	湯浅 頼佳
実習の日数	科 目 分 類
保育所（10 日間以上）と保育所以外の 児童福祉施設等（10 日間以上）	必修
【授業の目的・ねらい】 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 【授業全体の内容の概要】 保育所実習、児童福祉施設等実習を通して、役割や機能、計画と記録について学修する。専門職としての保育士の役割と職業倫理について学修する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 保育所実習、児童福祉施設等実習を通して、保育士を志す者としての自己覚知ができ、継続課題を見出す。	
【授業のテーマ・内容】 1 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり 2 保育所保育指針に基づく保育の展開 3 子どもの観察とその記録による理解 4 子どもの発達過程の理解 5 子どもへの援助や関わり 6 保育の計画に基づく保育内容 7 子どもの発達過程に応じた保育内容 8 子どもの生活や遊びと保育環境 9 子どもの健康と安全 10 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 11 記録に基づく省察・自己評価 12 保育士の業務内容 13 職員間の役割分担や連携・協働 14 保育士の役割と職業倫理 15 保育所実習のまとめ 16 施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり 17 施設の役割と機能 18 子どもの観察とその記録 19 個々の状態に応じた援助や関わり 20 計画に基づく活動や援助 21 子どもの心身の状態に応じた生活と対応 22 子どもの活動と環境 23 健康管理、安全対策の理解 24 支援計画の理解と活用 25 記録に基づく省察・自己評価 26 保育士の業務内容 27 職員間の役割分担や連携 28 家庭・地域社会に対する理解と連携 29 保育士の役割と職業倫理 30 施設実習のまとめ	
【テキスト】 石橋裕子ほか 編（2020）『幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 新訂 第2版 知りたいときにすぐわかる』同文書院	

3 年生

科 目 名		担 当 教 員 名
保育実習指導 I		湯浅 頼佳
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類
1 本	2 日間	必修
【授業の目的・ねらい】 1. 保育実習の意義と目的を理解する。 2. 実習実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 児童憲章について理解を深める。 5. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 6. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 【授業全体の内容の概要】 実習の意義、実習の内容と課題の明確化、実習に際しての留意事項、実習の計画と記録について学修する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 実習の意義、実習の内容と課題の明確化、実習に際しての留意事項、実習の計画と記録について理解する。		
【授業のテーマ・内容】 1 保育所実習の意義・実習の目的及び概要 2 保育所実習の内容と課題の明確化・実習の内容及び実習の課題 3 保育所実習に際しての留意事項(1)子どもの人権と最善の利益の考慮及びプライバシーの保護と守秘義務 4 保育所実習に際しての留意事項(2) 実習生としての心構え 5 保育所実習の計画と記録(1)指導計画の作成と実践及び指導計画の改善 6 保育所実習の計画と記録(2)実習における記録及び評価 7 事後指導における保育所実習の総括と自己評価及び課題の明確化 8 施設実習の意義・実習の目的及び概要 9 施設実習の内容と課題の明確化・実習の内容及び実習の課題 10 施設実習に際しての留意事項(1)子どもの人権と最善の利益の考慮及びプライバシーの保護と守秘義務 11 施設実習に際しての留意事項(2) 実習生としての心構え 12 施設実習の計画と記録(1)指導計画の作成と実践及び指導計画の改善 13 施設実習の計画と記録(2)実習における記録及び評価 14 事後指導における施設実習の総括と自己評価及び課題の明確化 15 実習報告会及びまとめと振り返り		
【テキスト】 石橋裕子ほか 編（2020）『幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 新訂 第2版 知りたいときにすぐわかる』同文書院		
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 保育実習において理解しておくべき事項（項目）は何か。項目ごとにまとめ、実習にどうつなげるべきか、考えを述べなさい。		
【レポート作成上の注意点】 指定テキスト「Part1～Part5(幼稚園に関する部分は除く)」を良く読み、作成して下さい。		
【スクーリングについて】 実習に向けての具体的な事項(実習の目的及びテーマの明確化、部分実習の計画等)について、講義及び演習を行います。		

3 年生

科 目 名		担 当 教 員 名	
保育実践演習		吉江 幸子	
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類	
1 本	2 日間	必修	
【授業の目的・ねらい】 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか自らの学びを振り返り把握する。保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題について現状分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。自己課題の明確化及び保育の実践に際して必要となる基礎的資質・能力の定着をさせる。			
【授業全体の内容の概要】 保育士として必要な専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等の習得について振り返る。さらに、保育実習等体験学習を通し、自己課題を明確にして保育士に求められる資質・能力とは何かを認識する。			
【授業修了時の達成課題（到達目標）】 保育士として必要な専門的知識、技術、職業倫理観について振り返ることができる。保育実習後の自己課題に気づき、保育士に求められる資質・能力が何かを認識できる。			
【授業のテーマ・内容】 1 学びの振り返り①保育士の意義、役割についてグループ討論 2 学びの振り返り②保育士の職務内容、子どもに対する責任、倫理についてグループ討論 3 学びの振り返り③社会性、対人関係能力についてロールプレイ 4 学びの振り返り④子どもやその家庭の理解についてロールプレイ 5 学びの振り返り⑤職員間、関係機関との連携についてロールプレイ 6 学びの振り返り⑥保育や子育て家庭に対する支援の展開に関する討論 7 保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク①課題について 8 保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク②要因、背景について 9 保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク③課題解決の内容と方法 10 保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループ発表、評価 11 これまでの学修を踏まえ、自己の課題の明確化 12 これまでの学修を踏まえ、目指す保育士像について明確化 13 自己の課題、保育士像に向けて取り組むべき具体的手段や方法の明確化 14 保育士としての資質、能力についての研究発表① 15 保育士としての資質、能力についての研究発表②、まとめと発表			
【テキスト】 ・使用しない 資料の提供、参考図書はスクーリング時に紹介します。 ※スクーリング時は「保育所保育指針」を持参してください。			
【レポート課題について】 次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい 「保育者の保育実践力向上のために必要なこと」について論じてください。 ※3年間の振り返り、実習終了者は実習後の振り返りも含めながら論じることが必要です。			
【レポート作成上の注意点】 ・以下のレポート作成のための参考文献を活用し作成すること。 ・参考文献、引用文献は必ず記入すること。			
【レポート作成のための参考文献】 厚生労働省『保育所保育指針＜平成 29 年告示＞』フレーベル館、2017。			
【スクーリングについて】 ①保育所保育指針 ②はさみ ③のり ④実習終了後の保育実習日誌（保育実習Ⅰ～Ⅲの実習日誌3冊／実習未実施の場合は終わった分のみ）を忘れずに持参してください。			

3 年生

科 目 名	担 当 教 員 名
保育実習Ⅱ	湯浅 頼佳
実習の日数	科 目 分 類
保育所において 10 日間以上	選択必修
【授業の目的・ねらい】 1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解する。 6. 実習における自己の課題を明確化する。 【授業全体の内容の概要】 保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察・記録・自己評価、保育士の専門性と職業倫理について学修し、自己の課題を明確にする。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について理解し、自己課題が明確になる。	
【授業のテーマ・内容】 1 養護と教育が一体となって行われる保育 2 保育所の社会的役割と責任 3 子どもの心身の状態や活動の観察 4 保育士等の援助や関わり 5 保育所の生活の流れや展開の把握 6 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して行う保育 7 入所している子どもの保護者に対する子育て支援 8 地域の保護者等に対する子育て支援 9 関係機関や地域社会との連携・協働 10 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 11 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 12 多様な保育の展開と保育士の業務 13 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 14 自己の課題の明確化 15 保育実習の総括	
【テキスト】 石橋裕子ほか 編（2020）『幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 新訂 第2版 知りたいときにすぐわかる』同文書院	

3 年生

科 目 名	担 当 教 員 名
保育実習Ⅲ	湯浅 頼佳
実習の日数	科 目 分 類
児童福祉施設等において 10 日間以上	選択必修
【授業の目的・ねらい】 1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して理解する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 実習における自己の課題を理解する。 【授業全体の内容の概要】 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能を理解し、支援のための知識、技術、判断力の習得とともに、保育士の業務内容や職業倫理を実践の中から学修する。自己の課題を明確化する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能が理解できる。実践を通して、支援のための知識、技術、判断力を習得する。保育士の業務内容や職業倫理を理解できる自己の課題が明確になる。 【授業のテーマ・内容】 1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 2 施設における子どもの生活と保育士の関わり 3 施設における支援の実際①受容し、共感する態度 4 施設における支援の実際②個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握とこども理解 5 施設における支援の実際③計画に基づく活動や援助 6 施設における支援の実際④個別支援計画の作成 7 施設における支援の実際⑤個別支援計画の実践、評価 8 施設における支援の実際⑥子ども（利用者）の家族への支援と対応 9 施設における支援の実際⑦各施設における多様な専門職との連携・協働 10 施設における支援の実際⑧地域社会における連携・協働 11 保育士の多様な業務 12 保育士の役割と職業倫理 13 記録に基づく省察・自己評価 14 保育士としての自己課題の明確化 15 施設実習のまとめ 【テキスト】 石橋裕子ほか 編（2020）『幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 新訂 第2版 知りたいときにすぐわかる』同文書院	

3 年生

科 目 名		担 当 教 員 名	
保育実習指導Ⅱ		湯浅 頼佳	
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類	
1 本	2 日間	選択必修	
【授業の目的・ねらい】 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 【授業全体の内容の概要】 保育実習Ⅱ（保育所実習）の履修者に対して指導を行う。保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について学修する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について理解し、具体的に述べる。 【授業のテーマ・内容】 1 オリエンテーション 2 事前指導① 保育実習Ⅰの振り返り 3 事前指導② 保育実習Ⅱの目的・内容・方法 4 事前指導③ 実習課題の設定 5 事前指導④ 指導計画の立案について 6 保育実習による総合的な学び（1）子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 7 保育実習による総合的な学び（2）子どもの保育と保護者支援 8 保育実践力の育成（1）子どもの状態に応じた適切なかかわり 9 保育実践力の育成（2）保育の表現技術を生かした保育実践 10 保育実践力の育成（3）未満児・以上児における指導案の作成と事前準備 11 計画と観察、記録、自己評価（1）保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 12 計画と観察、記録、自己評価（2）保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 13 事後指導① 保育園における保育士の職務 14 事後指導② 実習報告会の実施 15 事後指導③ 実習の総括と今後への課題 【テキスト】 石橋裕子ほか 編（2020）『幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 新訂 第2版 知りたいときにすぐわかる』同文書院 【スクーリングについて】 保育所実習に向けての具体的な事項についての講義・演習及び実習終了後の事後指導も行う。			

※「保育実習指導Ⅰ」の単位を取得できていない場合、「保育実習指導Ⅱ」は受講できません。

3 年生

科 目 名		担 当 教 員 名	
保育実習指導Ⅲ		湯浅 頼佳	
レポート本数	スクーリング	科 目 分 類	
1 本	2 日間	選択必修	
【授業の目的・ねらい】 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 【授業全体の内容の概要】 保育実習Ⅲ（施設実習）の履修者に対して指導を行う。保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について学修する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について理解し、具体的に述べる。 【授業のテーマ・内容】 1 オリエンテーション 2 事前指導① 保育実習Ⅰの振り返り 3 事前指導② 保育実習Ⅲの目的・内容・方法 4 事前指導③ 実習課題の設定 5 事前指導④ 指導計画の立案について 6 保育実習による総合的な学び（１）子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 7 保育実習による総合的な学び（２）子どもの保育と保護者支援 8 保育実践力の育成（１）子どもの状態に応じた適切な関わり 9 保育実践力の育成（２）保育の表現技術を生かした保育実践 10 計画と観察、記録、自己評価（１）保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 11 計画と観察、記録、自己評価（２）保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 12 事後指導① 児童福祉施設等における保育士の職務 13 事後指導② 実習報告会の実施 14 事後指導③ 実習評価と自己覚知 15 事後指導④ 実習の総括 【テキスト】 石橋裕子ほか 編（2020）『幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 新訂 第2版 知りたいときにすぐわかる』同文書院 【スクーリングについて】 施設実習に向けての具体的な事項についての講義・演習及び実習終了後の事後指導も行う。			

※「保育実習指導Ⅰ」の単位を取得できていない場合、「保育実習指導Ⅲ」は受講できません。



令和 7 年度

シラバス

星槎道都大学

指定保育士養成課程